明治大学人文科学研究所紀要　第65冊　(2009年3月31日) 293—338

# 総合型HTP法を子どもの心理検査として有効利用するための基礎研究

三　沢　直　子

—— *Abstract* ——

# The Basic Research for the Effective Use of the Synthetic House-Tree-Person Technique as a Psychological Assessment for Children

MISAWA Naoko

Summary

As child-related problems such as bullying, children's suicides and child abuse grow increasingly serious, an effective way of psychological assessment for children is in urgent need. The Synthetic House-Tree-Person Technique (S-HTP), a kind of drawing test, is effective for children including those with insufficient language development. However, its results have not been fully exploited due to the difficulty in interpreting them. This paper presents the result of the basic research aiming to interpret the S-HTP drawings in a more simple and objective way.

Research 1, a joint study with the psychological testers at the Child Guidance Centers in Tokyo, drew up a temporary evaluation form consisting of seven scales and nine check items after analyzing and studying approximately one hundred drawings. Then, this criterion was put to statistical analysis for its relevance with the analyzing items used in the past. Out of the seven scales, five ("integrity", "energy level", "development level", "inner richness", "social skills") were found to be effective. As for check items, it was indicated that eleven items including the nine ("aggressiveness", "defensiveness", "impulsiveness", "compulsiveness", "tension", "beautification", "shut-in-ness", "strangeness", "insecurity") as well as additional two ("lack of confidence" and "sexual depiction") should remain on the evaluation form.

Research 2 examined the 788 S-HTP drawings by elementary school children hitherto collected and analyzed them statistically for the difference in grade and year of study. Twenty-nine items showed difference in both grade and year of study, eleven items showed difference in only grade and thirteen items showed difference in only year of study. Forty-four items showed difference in neither. These results should prove to be quite useful in distinguishing among the developmental factors, the environmental influences, and the personal characteristics independent of either.

These two researches are certain to provide an important clue in the future for evaluating the results of S-HTP in a more objective way.

《個人研究第１種》

# 総合型HTP法を子どもの心理検査として有効利用するための基礎研究

三　沢　直　子

## Ⅰ．はじめに

現在，夫婦間暴力・児童虐待・離婚などの家族の問題や，いじめ・不登校・少年犯罪などの子どもの問題が，年々深刻化している。しかし，そのような問題状況のなかで，子どもの心がどのように傷つき，どのような心理状態になっているのかを，客観的に測定できる有効な心理検査があまり見当たらない。

特に被虐待児の場合，身体的虐待については外傷によってその問題の深刻さを測ることができるが，心理的虐待やネグレクト，性的虐待などについては，それがどれほど子どもの心に影響を及ぼしているかを客観的に測定するのが困難である。その結果，どうしてもそれらのケースは対応が遅れたり，手薄になったりしてしまう現状があることを，筆者自身，区役所内にある「子ども家庭支援センター」での相談業務の中で痛感してきた。

児童虐待という極端な問題に限らなくても，保育園・児童館・学校など子どもの現場に関わる人々の研修を行なってきた経験では，子どもの発達的問題や精神的・心理的問題はかなり深刻化し，増加しているという印象を受けている。そのような状況の中で，専門的な心理アセスメントを要するケースも増えてきており，幼児や児童に施行可能な心理検査を開発する必要性を感じた。

一般に言語表現が未発達な子どもに対しては，言葉を媒介とした検査は実際上施行が難しい，ということがある。そのため，これまで多くの児童臨床の現場では，バウムテストや人物画法，HTPテスト，家族画などの描画テストが用いられてきた。この描画テストは言葉を媒介としないテストであるので，子どもに実施しやすいという利点があるが，その他にも次のような投影法としての利点がある。投影法とは，ロールシャッハテストやTATなどに代表される検査で，曖昧な刺激に対しては被験者の内的世界が投影されるので，それによって被験者の心をより深く理解しようとして作られた心理検査である。描画テストも，何らかの絵を描いてもらうことによって，被験者の内面を理解しようとする投影法の一種である。子どもは自分や周囲の問題を意識できなかったり，あるいは意識してい

ても言葉にできない場合が多いので，そうした子どもに対して投影法を用いると，それらが無意識的に表現される，という大きな利点がある。しかしその一方で，描画テストを含めすべての投影法に共通する問題として，客観的な評価が難しく主観的解釈に陥りやすい，という問題がある。

筆者がこれまで行なってきた描画テストは統合型HTP法（以下，S-HTPと略す）というもので，従来のHTPテストが<家と木と人>という３つの課題をそれぞれ別紙に描くのに対して，すべてを入れて一枚の絵を描くというものである。これまでの経験では，本検査は多くの描画テストの中でも，子どもの発達的問題や精神的・心理的問題を測定する上で，より客観的な判定がしやすいという利点がある。その理由は，描画テストに関する長年の諸研究の結果から，描画を判読する上で細部の評価よりも全体的評価の方がより信頼性・妥当性が高いと言われてきたが（Swensen, C.1968）S-HTPは３つの課題を一緒に入れて描くために，従来の別描きのHTPテストに比べると，より多様な全体的評価が可能となったからである。

実際に児童相談所・家庭裁判所・小児病院などでも本法はかなり利用されるようになったが，その判読に際しては客観的な判定基準がないために，検査者の臨床経験や主観的解釈に委ねられてしまい，十分にその結果が生かされていない，という現状がある。そこで今回の研究の目的は，S-HTPを子どもの発達的あるいは心理的・精神医学的問題を査定する検査として，その結果をより活用できるようにするために，簡易で客観的な評価用紙を作成するための基礎的研究を行なう，ということにある。以下がそのまとめである。

## Ⅱ．これまでの研究

本来のHTPテストは，Buck(1949）によって創始され，家と木と人をそれぞれ別紙に描くものであった。わが国では，高橋が人を男女二人描く方法に改変したため，HTPPテストとも呼ばれてきた。筆者は最初，精神病院において主に統合失調症の入院患者に対して描画テストを実施いていたため，家と木と人すべて入れて一枚の絵を描くという統合型HTP法を採用してきた。これは，細木･中井ら（1972）によって始められたもので，その後も丸野･徳田ら（1975）などによって，主に精神医学領域で治療的に用いられてきた。しかし，筆者は心理検査として多くの統合失調症患者に実施してきた結果，統合型にしたことによる新たな所見に着目し，一般成人との違いに関する統計的研究（三上，1979）や事例的研究（三上，1979）を始めた。その一方で，幼稚園児から大学生までの発達的な変化に関する研究（三上，1981）や，母子関係のあり方をS-HTPを用いてアセスメントする研究（三上，1991）などを行ってきた。また，それらの結果を総括した本の中で（三上，1995），S-HTPの特徴として①従来のHTPテストに比べて施行が簡便なため，集団検査がしやすい。②各課題をどう描いたかだけでなく，各課題の関連性を見ることで，新たな情報が加わる。③描画の構造から言えば，個別の課題画と自由画の中間に位置する。④信頼性が高いと言われる全体的評価が多様に可能となるため，統計的な比較がしやすい，などがあることを明らかにした（三上，1995）。

それに引き続き，以上のS-HTPの利点を生かして，子どもたちの生育環境が大きく変わる中で，

子どもたちの心理的状態がどのように変わったかを調査するために，1981年の小学生と1997年～99年の小学生のS-HTP画を統計的に比較する研究を行った（三沢，2002)。その結果，①攻撃的・破壊的な絵の増加，②非現実的な表現の増加，③問題の多様化・両極化，④小さく，暖かみのない「家」の増加，⑤棒人間など簡略化した人間像の増加，⑥高学年での発達の停滞などの問題が明らかとなった。また，幼稚園や保育園でもS-HTPを実施し，かつての絵と比較した結果，小学生で見られた問題は幼稚園でも同様に見られるという結果を得た（三沢，2006，2008)。さらに，以上のようなS-HTPの研究を進める中で，本法が子どもの発達レベルや心理的問題，精神医学的問題を査定する上で，極めて有効であるとの感触を得た。

この他にも，家庭裁判所調査官たちと共同で行なった非行少年の統合型HTP法に関する研究がある（三上他，1998))。その中で，幼稚園から大学生までの一般群のS-HTP画と非行少年のS-HTP画とを発達的観点から比較して，どのような特徴があるかを統計的に分析した。その結果，非行少年の描画には，知的能力の問題や病的兆候は特に認められなかったが，幼稚な思考，単純で自己中心的・直情的傾向，行動化傾向，精神内界の貧困さ，内省力の乏しさなどの問題があり，外界との調和を得にくいという特徴が明らかになった。

さらに家庭裁判所調査官との共同で行った研究として，家事事件においてS-HTPをどのように活用するかについて行った研究がある（桑原他，1998)。その中では，家事事件における心理検査の位置づけや，テストバッテリーの組み方，実施方法，描画後質問，解釈とフィードバック・報告などについて，極めて具体的・実践的にまとめられた。

他の研究としては，S-HTPが統計的研究が比較的しやすいために，精神医学領域で特に統合失調症患者を対象とした研究として，須賀（1985)，市川（1988)，森田（1989）などの研究がある。それらの研究は，統合失調症患者の描画特徴や分析の視点をさらに明らかにした。また，一般健常群を対象とした研究としては，溝口ら（1999）の研究がある。これは，幼稚園児から高齢者までのS-HTPの変化をそれぞれ比較研究したもので，分析に際しては，家・木・人に関する項目，形式・構造に関する項目に加えて，専門家による主観的評定項目として８項目を１～３までの３段階評定で行った。その結果，15因子が抽出され，最終的に77項目のチェックリストが作成された。

また，今回のテーマに関連する研究としては，越智（2003）の研究がある。特に性的虐待に関しては，加害者も被害者もその事実を否認する場合が多いので，児童にその目的を悟らせずに情報を収集できる可能性がある投影法の有効性を，これまでの諸研究から分析した。その結果，客観的なスコアリングから判断するのは困難であるが，描画テストには性器を描くなどの性化行動が見られることが性的虐待の識別に有効である，ということが示唆された。ここで用いられた描画テストは，人物画とHTPテストであった。

また，松田（2006）は，大学生による中学生へのピア・サポート・プログラムの効果判定を行ためにS-HTPを用いた研究を行った。分析においては，５つの尺度で１～６まで得点化し，さらにそれらの平均点を得点化して，プログラム前後の変化を見た結果，プログラムに参加した中学の絵は，より統合的でのびのびし，精神的な健康度を示唆するような変化を示したことが確認された。

その他にも，明治大学大学院においては，山岡（2006）のEQと比較した研究，西田（2006）の中年のアイデンティティとの関連を見た研究，土井（2007）の家族画と共に家族関係をアセスメントするための研究，古賀（2007）の保育園におけるセカンドステップ実施についてS-HTPを用いての効果判定をした研究，吉田（2007）のゲームなどとの関連でS-HTPを分析した研究などが行われてきた。現在も明治大学大学院でのS-HTP研究会は引き続き行われ，養護施設で実施されたS-HTP画の検討などを行っている。

## Ⅲ．今回の研究経過

最初の研究計画では，病院・児童相談所・家庭裁判所などさまざまな臨床領域の専門家による研究チームを結成する予定だったが，まずは東京都の児童相談センターと各児童相談所の心理判定員14名と筆者および研究協力者2名の計17名で，研究チームを組んで描画の検討を始めた。その結果，そこでの事例は発達障害，情緒障害，非行問題などすべての問題を網羅することがわかった。そこで，まずはそれらの事例を中心としてS-HTP画を分析しながら，必要に応じて対象者を拡大していく，ということになった。

具体的には，各研究協力者がそれぞれの現場でできるだけ多くのS-HTPを実施し，それらの結果をほぼ月１回行われた研究会に持ち寄って，全員で各描画の判読を行った。毎回ほぼ10枚程度のS-HTP画が提出されて，7，80枚の描画を検討した段階で，試験的に評価用紙を作成してみることになった。はじめの研究計画では，これまで小学生のS-HTP画を分析するために用いてきた149項目の分析項目を基に，主要な分析項目を絞り込むことにあったが，この段階で暫定的な評価用紙を作成することが可能なのではないか，ということになったからである。そして，研究２年度目にはそれに沿った評定を行い，その結果とこれまでの分析項目に沿った分析結果とを照合する。それによって，評価用紙で用いる尺度やチェック項目に関して，客観的な評価基準を明らかにし，最終的にその暫定的に定めた尺度とチェック項目の採否を検討する，という研究計画への変更である。

そこで，研究初年度の終盤にさしかかった時期に，評価用紙の作成を研究参加者全員の協議によって行った。具体的には，これまで病院などで成人のS-HTPを実施した際に用いてきた「S-HTP結果表」を基にしながら，対象者を５歳から18歳に想定した場合にどのような変更が必要かを，研究会でケースを検討してきた結果や，これまでの諸研究の結果などを参考としながら，資料1のような暫定的な評価用紙を作成した。そして，翌年度はそれぞれのS-HTP画について，この評価用紙に沿った判定と従来の分析項目に沿った分析とを並行して行うことになった。

ところが研究２年度目の平成17年度に入ったところで，初年度に研究協力者として参加していただいていた方々が，責任者をはじめとしてかなり多くの方々が他の職場に異動されることとなった。それによって，前年度に検討した描画テストの結果を再度持ち出して評価用紙に沿って評定することが，事実上困難となったケースが多く，その上，「個人情報保護法」の実施により，他のデータの持ち出しも難しいという状況となった。さらに，すでに提出されていたデータ自体も，多忙を極める中

で検査が実施されたために，必ずしも既定の検査条件に従って実施されたものではないデータがかなり混入していた。それゆえ，それらを一緒に分析していいかどうかさえ疑問に思われた。それ以降の17年度も研究会自体は継続されて，その中で計28例のS-HTP画が検討されたが，以上のような諸事情によって，また新たに研究計画を変更せざるを得なくなった。

そこで，初年度に作成した評定尺度の判断基準や最終的な採否を検討するために，これまで小学校において実施してきたS-HTP画を対象として分析を行う，ということになった。それらの絵はすでに149項目の分析項目に沿って分析していたので，その結果と新たに作成した評価用紙に沿って評定した結果とを照合することによって，それぞれの尺度やチェック項目の判定基準や採否を検討するというものである。その結果は，研究1として以下にまとめた。

また，それを補足する研究として，これまで集積していた小学生のすべてのS-HTP画を対象として，S-HTPにおける年齢差と年度差を統計的に分析することによって，発達的要素と環境的要素，および個人的要素を判読するための手がかりを得る，という研究を研究2にとして行った。以下に2つの研究をまとめて，最後に今後のS-HTP画を研究するための課題をまとめたい。

**資料1．S-HTP評価用紙**

性別　　年齢　　名前

| | −2 | −1 | 0 | +1 | +2 |
|---|---|---|---|---|---|
| 総合的評価 | | | | | |
| 統合性 | | | | | |
| エネルギー水準 | | | | | |
| 発達レベル | | | | | |
| 自己評価 | | | | | |
| 内的豊かさ | | | | | |
| 安定性 | | | | | |
| 社会性 | | | | | |

□攻撃的　□防衛的　□妄想的

□衝動的　□強迫的　□不安感

□緊張感　□美化　□内閉的

＜備考＞

## V．研究

### 研究１：S-HTP の評価用紙の作成とその判断基準の基礎的研究

#### １．研究方法

１）目　的：暫定的に作成した評価用紙の各評定尺度やチェック項目について，評定する際の手がかりとなる描画特徴を明らかにする。

成人用の結果表は，評定尺度として「エネルギー水準」，「統合性」，「安定性」，「社会性」，「現実検討力」の５尺度と，チェック項目として，「妄想的」，「攻撃的」，「内閉的」，「緊張感」，「不安感」，「抑うつ的」の６項目，それに「総合的評価」の尺度が用いられていた。それに対して，今回は児童が対象となるので，「統合性」，「エネルギー水準」，「安定性」，「社会性」はそのまま用いるとして，「現実検討力」の代わりに「発達レベル」を入れ，それに「自己評価」と「内的豊かさ」の２項目を加えて，計７尺度とした。また，チェック項目については，「攻撃的」，「妄想的」，「不安感」，「緊張感」，「内閉的」の５項目は同じだが，「抑うつ的」は子どもの場合判断が難しく，なおかつ「エネルギー水準」という尺度があるので，今回は省くことになった。それに，新たに「防衛的」，「衝動的」，「強迫的」，「美化」の４項目が付け加えられて，計９項目となった。５尺度から７尺度へ，６項目から９項目へといずれも増えているが，それは最終的に取捨選択することを前提に，現段階では研究会において提案されたものを全て含めた結果である。

２）対象者：小学生１年から６年の238名の S-HTP 画

これまで S-HTP を実施した小学生は表１に示すとおりである。この後の研究２では，環境的な要因の影響も検討するために，1981年の小学生238名と97～99年の小学生550名，計788名の描画を分析対象とするが，この研究１においては1981年の小学生238名のみを対象とすることにした。本来は，より新たなデータである97～99年の小学生の描画を分析すべきと思うが，先の研究でも明らかになったように，この群は４年生で描画発達が頭打ちになる，という特異な結果を示していた。それは，長年続けられてきたさなざまな描画研究の結果から，小学３，４年を境として観念画から写実画へと変わっていくという見解からするならば，極めて特異な結果と言える。それが現代の子どもたちの平均的な絵であるとするならば，それを基準として考えるべきであるとの意見が一方にあが，今回の評定に関わった３人の討議結果は，現代の特異な環境における特異な反応として，標準化するための基準にすべきではない，という結論に達した。それゆえ，今回の分析対象は，本来見られるはずの観念画から写実画への移行が明らかに認められ1981年の小学生238名の S-HTP 画のみを対象とした。

表1　調査の対象となった人数

※数字は人数

| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 | 低学年 | 高学年 | 全学年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1981　長野 | 男 | 22 | 18 | 21 | 22 | 18 | 18 | 61 | 58 | 119 |
| | 女 | 21 | 20 | 22 | 16 | 19 | 21 | 63 | 56 | 119 |
| | 計 | 43 | 38 | 43 | 38 | 37 | 39 | 124 | 114 | 238 |
| 1997　東京 | 男 | 14 | 17 | 14 | 13 | 16 | 17 | 45 | 46 | 91 |
| | 女 | 12 | 14 | 16 | 11 | 12 | 22 | 42 | 45 | 87 |
| | 計 | 26 | 31 | 30 | 24 | 28 | 39 | 87 | 91 | 178 |
| 1998　長野 | 男 | 14 | 16 | 18 | 13 | 19 | 16 | 48 | 48 | 96 |
| | 女 | 17 | 14 | 17 | 16 | 12 | 19 | 48 | 47 | 95 |
| | 計 | 31 | 30 | 35 | 29 | 31 | 35 | 96 | 95 | 191 |
| 1999　東京 | 男 | 26 | 14 | 14 | 18 | 5 | 14 | 54 | 37 | 91 |
| | 女 | 16 | 20 | 11 | 16 | 14 | 13 | 47 | 43 | 90 |
| | 計 | 42 | 34 | 25 | 34 | 19 | 27 | 101 | 80 | 181 |
| 1997－99計 | 男 | 54 | 47 | 46 | 44 | 40 | 47 | 147 | 131 | 278 |
| | 女 | 45 | 48 | 44 | 43 | 38 | 54 | 137 | 135 | 272 |
| | 計 | 99 | 95 | 90 | 87 | 78 | 101 | 284 | 266 | 550 |
| 合計 | 男 | 76 | 65 | 67 | 66 | 58 | 65 | 208 | 189 | 397 |
| | 女 | 66 | 68 | 66 | 59 | 57 | 75 | 200 | 191 | 391 |
| | 計 | 142 | 133 | 133 | 125 | 115 | 140 | 408 | 380 | 788 |

3）方　法：各評定尺度とチェック項目に沿って238枚の描画を評定した結果と，149項目の分析項目に沿って分析した結果との相関性を見る。

それぞれの絵を評価する際は，できるだけ信頼性を高めるために，S-HTPについての実施や判読経験が豊富な検査者３名の合議によって評定した。実際の評定に当たっては，判断が微妙に分かれることもあったが，その度に三者で合議して細かな規定をして，評価基準を明らかにする努力を重ねた。それぞれの判定基準については，以下の結果も含めたまとめの中で，基準となる描画を示しながら具体的に説明し検討する。

なお，今回の研究においては，「総合的評価」と「発達レベル」についての評定は困難であるとして，今後の課題とすることにした。ただし，学年差と各分析項目との相関係数については算出しているので，その結果は発達レベルを考える際の重要な手がかりとなるものと思われる。また，チェック項目については，今回の分析対象が一般児童の描画に絞られたために，統計的分析をするほどの枚数には至らなかった。それゆえ，これらのチェック項目も，今回の統計的分析からは除外した。

## 2．研究の結果

それぞれの評価尺度および学年と分析項目の相関性は，表２に示すとおりである。また，各尺度と相関性を示した項目については，資料２として各尺度毎にまとめた。

表２　評定尺度と項目間の相関性

| | 統合性 | エネルギー | 自己評価 | 内的豊かさ | 安定性 | 社会性 | 学年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 統合性 | 1 | | | | | | |
| エネルギー水準 | 0.453718 | 1 | . | . | . | . | |
| 自己評価 | −0.41217 | 0.092036 | 1 | . | . | . | |
| 内的豊かさ | 0.746095 | 0.634584 | −0.167 | 1 | . | . | |
| 安定性 | 0.108224 | 0.023431 | 0.171142 | 0.184716 | 1 | . | |
| 社会性 | 0.389637 | 0.291106 | −0.07456 | 0.576051 | 0.112805 | 1 | |
| 学年 | 0.706628 | 0.275614 | −0.22384 | 0.348727 | 0.139063 | 0.09425 | 1 |
| 遠近感 | 0.641086 | 0.331907 | −0.24108 | 0.475026 | −0.00443 | 0.357628 | 0.533259 |
| 描画サイズ全体で4分の1以下 | 0.1804 | −0.99076 | −0.61995 | 0.01745 | −0.36544 | −0.24149 | 0.984501 |
| 陰 | 0.659347 | −0.12325 | −0.33899 | 0.537492 | 0.15706 | 0.200143 | 0.423273 |
| 影 | 0.197778 | −0.46057 | −0.41769 | 0.019144 | −0.39952 | −0.26486 | 0.381262 |
| 付加物 | 0.280192 | 0.182868 | −0.27633 | 0.505306 | −0.03302 | 0.222786 | −0.12353 |
| 山 | 0.477384 | 0.341237 | −0.0053 | 0.412791 | −0.19539 | 0.290288 | 0.318379 |
| 道 | 0.470321 | 0.292064 | −0.0768 | 0.315434 | 0.037397 | 0.231052 | 0.490676 |
| 草花 | 0.144189 | 0.0999 | 0.085204 | 0.215919 | 0.244042 | 0.065077 | 0.015623 |
| 囲い | 0.368251 | 0.281847 | −0.02124 | 0.474632 | 0.381092 | 0.143648 | 0.217483 |
| 門 | 0.355383 | 0.020037 | −0.0974 | 0.537492 | 0.954922 | −0.04693 | 0.214669 |
| 雲 | −0.32893 | −0.11194 | 0.064218 | −0.01749 | −0.02577 | −0.04107 | −0.27189 |
| 太陽 | −0.48913 | −0.2183 | −0.01546 | −0.28221 | −0.07191 | −0.04604 | −0.54799 |
| 動物 | 0.144208 | 0.016857 | −0.05316 | 0.29206 | −0.15427 | 0.286181 | −0.05482 |
| 魚 | 0.213244 | 0.13113 | −0.18693 | 0.244593 | 0.044905 | 0.368819 | 0.094687 |
| 虫 | −0.09998 | 0.045799 | 0.052882 | 0.179914 | −0.2297 | 0.108325 | −0.12695 |
| 鳥 | 0.053607 | 0.079324 | 0.001055 | 0.296891 | −0.05462 | 0.147175 | −0.14657 |
| ちょう | −0.00403 | 0.210065 | 0.256953 | 0.160182 | 0.05231 | 0.286921 | −0.11528 |
| 乗り物 | 0.23126 | 0.082461 | −0.27758 | 0.396711 | −0.09442 | 0.330221 | 0.015386 |
| 川 | 0.091825 | 0.255676 | −0.37866 | 0.126109 | −0.14535 | 0.145178 | 0.055992 |
| 田畑 | 0.659347 | 0.471669 | −0.0974 | 0.537492 | 0.15706 | −0.30905 | 0.604837 |
| 池 | 0.238906 | 0.153606 | −0.16653 | 0.242072 | 0.011305 | 0.309855 | 0.123724 |
| 地面 | −0.00047 | 0.095292 | −0.11548 | 0.184764 | −0.03447 | −0.05941 | −0.07782 |
| 絵全体の現実性 | 0.056204 | 0.104492 | −0.16973 | 0.278118 | −0.04658 | 0.260395 | −0.39548 |
| 擬人化 | −0.14595 | −0.10561 | −0.10205 | 0.189643 | 0.250528 | 0.153147 | −0.44687 |
| それ以外の非現実的描写 | 0.207009 | 0.246741 | −0.18055 | 0.291607 | −0.26027 | 0.292503 | −0.28549 |
| 家の中にいる | 0.169815 | 0.148427 | −0.18745 | 0.381085 | 0.079835 | 0.339112 | 0.048992 |
| 中だけ | 0.104761 | 0.084496 | −0.46796 | 0.143235 | −0.075 | −0.47185 | 0.071635 |
| 中と外 | 0.158762 | 0.142298 | −0.01881 | 0.407098 | 0.138494 | 0.675286 | 0.025934 |
| 家から遠ざかる | 0.521704 | 0.132823 | −0.09167 | 0.483176 | 0.96921 | 0.403008 | 0.112188 |
| ドアに手をふれている | 0.438996 | 0.450105 | 0.12926 | 0.230699 | −0.42321 | 0.061777 | 0.118258 |
| 家を見ている | 0.207009 | −0.02391 | −0.23253 | 0.373873 | −0.08185 | 0.157135 | 0.311744 |
| 家へと歩いている | 0.236919 | 0.181995 | −0.07424 | 0.321036 | 0.290192 | 0.048416 | 0.228962 |
| 家の上にいる | 0.063365 | −0.03119 | −0.48361 | −0.12237 | −0.45788 | 0.13517 | 0.040033 |
| 家に寄りかかっている | 0.1804 | 0.999 | −0.08359 | 0.01745 | −0.36544 | 0.058298 | 0.099781 |
| 木に接している | 0.112298 | −0.18618 | 0.116637 | −0.1662 | −0.194 | 0.17027 | 0.360906 |
| 木に寄りかかっている | 0.438996 | −0.12325 | −0.33899 | 0.418749 | 0.15706 | 0.300348 | 0.098966 |
| 木に登っている | 0.298737 | 0.012993 | −0.38448 | 0.318605 | −0.39964 | 0.531662 | −0.15533 |
| 木にぶらさがっている | 0.184343 | 0.222579 | −0.28981 | 0.167631 | −0.23816 | 0.202901 | −0.02053 |
| 木を見ている | 0.331249 | 0.324053 | 0.051798 | 0.215938 | 0.102455 | −0.10302 | 0.189712 |
| 人数 | 0.1582 | 0.02761 | −0.3594 | 0.1782 | −0.1295 | 0.7538 | −0.01182 |
| 背丈 | −0.2891 | 0.1297 | 0.8066 | −0.2516 | 0.06235 | −0.1936 | −0.03404 |
| はみ出し | 0.11237 | 0.051485 | −0.03853 | 0.098422 | −0.17537 | −0.24525 | 0.048131 |
| 性別同性 | 0.378659 | −0.11456 | −0.55208 | 0.163886 | −0.26027 | 0.11609 | 0.03353 |
| 向き正面 | −0.58111 | −0.33871 | 0.22966 | −0.51105 | −0.03686 | −0.52695 | −0.51864 |
| 向き横 | 0.267953 | 0.178092 | −0.02198 | 0.305567 | 0.110423 | 0.045704 | 0.353059 |
| 向き混合 | 0.460221 | 0.223814 | −0.16383 | 0.418884 | 0.015239 | 0.762165 | 0.23349 |
| バランス過大 | −0.71138 | −0.21941 | 0.883523 | −0.48927 | 0.045246 | −0.25234 | −0.37949 |
| 運動描写 | 0.603065 | 0.338254 | −0.26385 | 0.541566 | −0.02842 | 0.438067 | 0.460962 |
| 座っている | 0.328701 | −0.00289 | −0.09292 | 0.212215 | −0.06828 | 0.269916 | 0.173769 |
| 歩いている | 0.446342 | 0.084943 | −0.09757 | 0.291763 | 0.190406 | 0.179293 | 0.333025 |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 走っている | 0.042676 | 0.420367 | 0.149159 | 0.203234 | 0.278143 | −0.02363 | 0.293982 |
| 遊んでいる | 0.47982 | 0.28402 | −0.32801 | 0.423585 | −0.14801 | 0.657373 | 0.148363 |
| 仕事している | 0.378659 | 0.077491 | −0.48361 | 0.291607 | −0.08185 | 0.221277 | 0.246278 |
| シルエット | −0.03572 | −0.13769 | −0.39246 | −0.18826 | −0.5919 | 0.264582 | −0.31942 |
| 記号化 | −0.13211 | −0.27947 | −0.999 | −0.27395 | −0.39952 | 0.064054 | −0.47089 |
| 主要人物顔 | −0.5217 | −0.53445 | 0.571378 | −0.30799 | 0.297184 | 0.305617 | −0.01274 |
| 主要人物簡略化 | −0.06979 | −0.19313 | −0.54684 | −0.2336 | −0.59001 | 0.230536 | −0.38708 |
| 頭＞4頭身 | −0.33404 | 0.037869 | 0.223125 | −0.12859 | 0.04861 | 0.232038 | −0.20516 |
| ひじあり | 0.416543 | 0.199031 | 0.060208 | 0.187795 | 0.029417 | 0.201596 | 0.381954 |
| ひざあり | 0.43217 | 0.214473 | −0.04624 | 0.294926 | 0.159617 | 0.394753 | 0.477184 |
| 手なし | −0.37228 | −0.14426 | −0.38697 | −0.23291 | −0.50411 | −0.12294 | −0.59228 |
| 足なし | −0.4159 | −0.08515 | −0.20238 | −0.28346 | −0.47568 | −0.14526 | −0.6617 |
| 首なし | −0.29549 | −0.02675 | −0.08834 | −0.06557 | −0.16365 | −0.01444 | −0.4819 |
| 短かすぎる腕 | −0.58821 | −0.1504 | 0.152449 | −0.18974 | −0.13869 | −0.07021 | −0.59527 |
| 人浮き上がり | −0.99842 | −0.50012 | 0.251526 | −0.7009 | −0.13058 | −0.44817 | −0.57813 |
| 家の数 | 0.2068 | 0.07064 | −0.2209 | 0.1681 | −0.08596 | 0.2539 | 0.1768 |
| 家面積 | 0.2738 | 0.4038 | −0.00404 | 0.2652 | 0.135 | 0.03258 | 0.1745 |
| 家はみ出し | 0.434537 | 0.38739 | −0.03893 | 0.407004 | 0.06475 | 0.282865 | 0.390888 |
| 壁の数 | 0.420851 | 0.099445 | −0.12647 | 0.114618 | −0.0467 | 0.04769 | 0.587824 |
| 家縦長 | −0.65118 | −0.17631 | 0.235694 | −0.35092 | −0.13977 | −0.13372 | −0.64917 |
| 家横長 | 0.471156 | 0.052074 | −0.17605 | 0.156237 | 0.183901 | 0.043497 | 0.549457 |
| 両方なしまたは窓なし | −0.36498 | −0.28715 | −0.11015 | −0.43902 | −0.43584 | −0.32347 | −0.15253 |
| ドアなし | 0.207912 | −0.00978 | −0.11524 | 0.115991 | −0.02173 | −0.14383 | 0.091606 |
| 両方あり | 0.022865 | 0.176646 | 0.119676 | 0.131259 | 0.255721 | 0.282584 | 0.010789 |
| 基線 | 0.426102 | 0.158361 | −0.14051 | 0.212051 | −0.11347 | 0.128516 | 0.35908 |
| 屋根の模様 | 0.505335 | 0.332298 | −0.17923 | 0.411802 | 0.074403 | 0.218623 | 0.388347 |
| ベランダ | 0.43211 | 0.270366 | −0.19286 | 0.260881 | 0.150298 | 0.192057 | 0.384482 |
| アンテナ | 0.238964 | −0.01811 | −0.28796 | 0.103823 | −0.37953 | −0.072 | 0.353094 |
| 二階建て | 0.044344 | 0.197928 | −0.0102 | 0.251781 | 0.06654 | 0.269404 | 0.004142 |
| ポスト | 0.601434 | 0.481024 | −0.04869 | 0.653321 | 0.230666 | 0.323941 | 0.33947 |
| 表札 | 0.633184 | 0.499865 | −0.11577 | 0.563579 | 0.137122 | 0.327419 | 0.607343 |
| 雨樋 | 0.368017 | 0.374054 | −0.21482 | 0.361472 | 0.158312 | 0.213533 | 0.205255 |
| 煙突 | −0.19638 | 0.057361 | 0.216987 | 0.134088 | −0.07533 | 0.027214 | −0.33645 |
| 階段 | −0.03324 | 0.306445 | −0.14772 | −0.0678 | −0.24662 | −0.05218 | 0.077818 |
| カーテン | −0.11722 | −0.05414 | 0.182683 | 0.014408 | 0.199363 | 0.092217 | −0.09122 |
| 呼び鈴 | 0.346768 | 0.367449 | −0.02514 | 0.309203 | −0.19292 | 0.166976 | 0.263163 |
| 木の数 | 0.1508 | 0.1079 | −0.1601 | 0.06249 | −0.0879 | 0.08259 | 0.1358 |
| 木cm | −0.09738 | 0.2507 | 0.1255 | −0.02108 | −0.03053 | −0.05648 | 0.04706 |
| 木はみ出し | 0.393498 | 0.298568 | −0.04956 | 0.124964 | 0.028473 | −0.04411 | 0.372332 |
| 枯れ木 | 0.283057 | 0.290646 | −0.01495 | −0.05125 | 0.162909 | −0.04461 | 0.450562 |
| 樹皮 | 0.244836 | 0.324544 | −0.07981 | 0.081584 | −0.13213 | −0.19443 | 0.276011 |
| 上方直閉幹 | −0.57847 | −0.20213 | 0.366213 | −0.24631 | 0.012104 | −0.13557 | −0.65325 |
| 下方直閉幹 | −0.16675 | −0.15143 | 0.016611 | −0.13799 | −0.20917 | 0.001707 | −0.23197 |
| 全枝先直 | −0.44163 | −0.09837 | 0.181686 | −0.33211 | 0.242467 | −0.15983 | −0.34477 |
| 枝直交 | −0.21895 | 0.071066 | −0.04611 | −0.24991 | −0.50462 | −0.13264 | −0.37898 |
| 幹下縁立 | −0.24732 | 0.0185 | 0.101251 | −0.18372 | 0.022506 | −0.04487 | −0.19317 |
| 枝描写 | 0.454104 | 0.34302 | −0.17821 | 0.27576 | 0.047636 | 0.215277 | 0.310467 |
| 枝単線 | 0.3883 | −0.02977 | −0.12811 | 0.025695 | −0.02939 | −0.1104 | 0.505793 |
| 根 | 0.131368 | 0.070913 | −0.20711 | 0.081911 | −0.11904 | −0.01099 | 0.137015 |
| うず | 0.239522 | 0.346567 | 0.052833 | 0.020084 | −0.18575 | 0.188387 | 0.123143 |
| 実のある木 | −0.07109 | −0.04307 | 0.169488 | 0.074979 | 0.092235 | 0.199437 | −0.20669 |
| 樹冠内に葉のある木 | −0.16557 | −0.23845 | 0.162022 | −0.07499 | 0.189461 | −0.05892 | −0.07991 |
| 樹冠がなく葉のある木 | 0.050437 | 0.055155 | 0.159863 | 0.074798 | −0.06492 | 0.015069 | 0.009677 |
| 説明書き | −0.246 | −0.10909 | 0.305953 | −0.14872 | −0.42321 | 0.061777 | −0.26911 |
| 定規使用 | 0.063365 | 0.035542 | −0.10696 | −0.12237 | 0.317846 | −0.00154 | −0.00337 |

## 資料2

### 統合性

（＊＊：0.4 ～ 0.6あるいは－0.6 ～－0.4　＊：0.6以上あるいは－0.6以下）

プラスの相関
・エネルギー水準　＊
・内的豊かさ　＊＊
・学年　＊＊
・遠近感　＊＊
・陰　＊＊
・山　＊
・道　＊
・田畑　＊＊
・家から遠ざかる　＊
・ドアに手をふれている　＊
・木に寄りかかっている　＊
・人の向きが混合　＊
・運動描写　＊＊
・歩いている　＊
・遊んでいる　＊
・ひじあり　＊
・ひざあり　＊
・家はみ出し　＊
・壁の数　＊
・家が横長　＊
・基線あり　＊
・屋根の模様　＊
・ベランダ　＊
・ポスト　＊
・表札　＊
・枝描写　＊
（以上，26項目）

マイナスの相関
・自己評価
・太陽　＊
・人の向きが正面　＊
・バランス過大　＊＊
・主要人物の顔なし　＊
・足なし　＊
・短かすぎる腕　＊
・人浮き上がり　＊＊
・家が縦長　＊＊
・上方直閉幹　＊
・全枝先直　＊
（以上，10項目）

### エネルギー水準

プラスの相関
・統合性　＊
・内的豊かさ　＊
・田畑　＊
・ドアに手を触れている　＊
・家に寄りかかっている　＊＊
・走っている　＊
・家の面積　＊
・ポスト　＊
・表札　＊
（以上，９項目）

マイナスの相関
・描画サイズが全体で４分の１以下　＊＊
・影　＊
・主要人物の顔がない　＊＊
・人の浮き上がり　＊＊
（以上，４項目）

**自己評価**

プラスの相関
・背丈　＊＊
・人が過大　＊＊
・主要人物の顔　＊
(以上，３項目)

マイナスの相関
・統合性　＊
・描画サイズが全体で４分の１以下　＊＊
・影　＊
・人が家の中だけにいる　＊
・人が家の上にいる　＊
・性別同姓　＊
・仕事をしている　＊
・記号化　＊＊
・主要人物を簡略化　＊
(以上，９項目)

**内的豊かさ**

プラスの相関
・統合性　＊＊
・エネルギー水準　＊＊
・社会性　＊
・遠近感　＊
・陰　＊
・付加物あり　＊
・山　＊
・囲い　＊
・門　＊
・田畑　＊
・人が家の中と外にいる　＊
・家から遠ざかる　＊
・木に寄りかかっている　＊
・人の向きが混合　＊
・運動描写　＊
・遊んでいる　＊
・家が画面からはみ出している　＊
・屋根の模様　＊
・ポスト　＊＊
・表札　＊
(以上，20項目)

マイナスの相関
・人が正面向き　＊
・人が過大
・人の浮き上がり　＊＊
・ドア窓または窓がない　＊
(以上，４項目)

**安定性**

プラスの相関
・門　＊＊
・家から遠ざかる　＊＊
(以上，２項目)

マイナスの相関
・ドアに手を触れている　＊
・家の上にいる　＊
・シルエットのみの人　＊
・主要人物の簡略化　＊
・手なし　＊
・足なし　＊
・ドア窓あるいは窓なし　＊
・枝直交　＊
・説明書き　＊
(以上，９項目)

**社会性**

プラスの相関
・内的豊かさ　＊
・人が家の中と外にいる　＊＊
・人が家から遠ざかる　＊
・木に登っている　＊
・人数　＊＊
・人の向きが混合　＊＊
・運動描写　＊
・遊んでいる　＊＊
（以上，８項目）

マイナスの相関
・人が家の中にいる　＊
・人が正面向き　＊
・人の浮き上がり　＊
（以上，３項目）

**学年**

プラスの相関
・統合性　＊＊
・遠近感　＊
・描画サイズが４分の１以下　＊＊
・陰　＊
・山　＊
・田畑　＊＊
・運動描写　＊
・ひざあり　＊
・壁の数　＊
・家が横長　＊
・表札　＊
・枯れ木　＊
・枝が単線　＊
（以上，13項目）

マイナスの相関
・太陽　＊
・擬人化　＊
・人が正面向き　＊
・記号化　＊
・手なし　＊
・足なし　＊
・首なし　＊
・短すぎる腕　＊
・人の浮き上がり　＊
・家が縦長　＊＊
・上方直閉幹　＊＊
（以上，11項目）

## ３．まとめと考察

１）評価尺度間の相関性

この評価尺度を作成していたときに，最初は「統合性」が総合的評価となり得るのではないかと考えていたが，実際の分析結果も，「内的豊かさ」，「学年」の尺度と強い相関，「エネルギー水準」と弱い相関，「自己評価」とは弱い逆相関が見られ，他にも「社会性」とは0.39という数値を示した。結局，あまり相関性を持たないという結果になったのは，「安定性」との間の0.11のみであった。そういう意味では，確かにこの「統合性」は，他の評価尺度と微妙に絡みながら評価されることが明らかとなり，総合的な評価項目として考えられなくもないことが判明した。

ただし，このうち「自己評価」は「統合性」と逆相関を示しており，自己評価が高いほど統合性は低くなるということで，一見矛盾した結果になっている。その原因は，人物像が過大に描かれた場合に，「自己評価」は高得点になるが，「統合性」は大きさのバランスの悪化という意味で，評価が下がってしまうことによるものと思われる。それゆえ，今後この「自己評価」の評定尺度を残す場合は，評価の仕方を考え直す必要があろう。

その他に，「統合性」尺度以外に相関性が認められたのは，「内的豊かさ」と「エネルギー水準」お

よび「社会性」との間における正の相関であった。この「内的豊かさ」は，「統合性」とかなり高い相関性が認められているので，あえて別尺度としてこの項目を残すかどうかを今後さらに検討する必要があるように思われる。

今回の評定においては，「総合的評価」と「発達レベル」の評価については，事実上困難として除外することになったが，「統合性」がほとんどの尺度と相関性を示したことで，再度「統合性」を総合的評価と考えてよいかどうかという課題が残った。今後，あえて判定が困難な「総合的評価」を加えるか，あるいはそれを「統合性」尺度に代えて，それに他の評定尺度を並記するに留めるかは，さらに検討を要することと思われた。

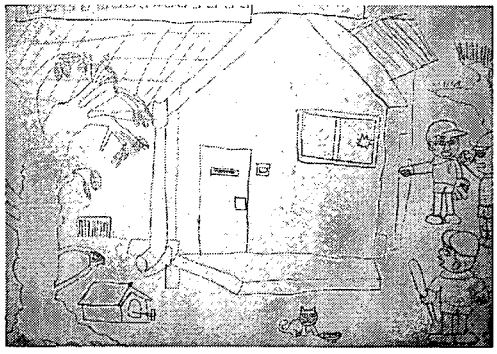
また，「発達レベル」の尺度に代わって今回分析に含めた「学年」が，唯一相関性を持った尺度が「統合性」のみであったことも興味深い結果であった。逆にいうならば，少なくても小学生に関しては，他の「エネルギー水準」や，「自己評価」，「内的豊かさ」，「安定性」，「社会性」などは発達の影響はあまりない項目であった，ということである。

以上の結果は，今後さらに評定尺度の採否を検討したり，S-HTPの発達レベルや総合的評価を考える上で，重要な手掛かりになるものと思う。

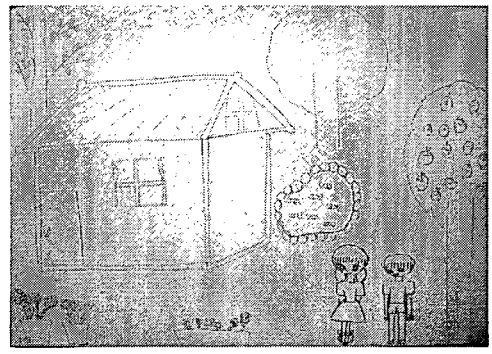
2）各尺度における評価基準と分析項目との相関性

① 統合性

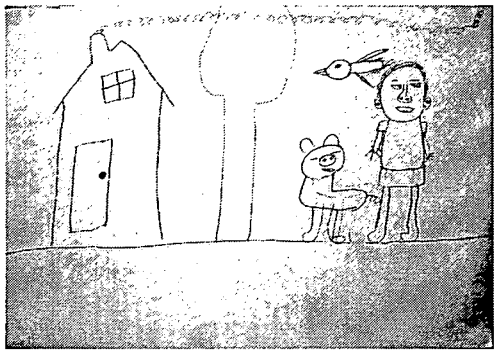
統合性についての評価は，これまでの研究で用いてきた分析項目である「羅列的」・「やや羅列的」・「媒介による統合」・「やや統合的」・「明らかに統合的」の5段階評価をそのまま採用して，「羅列的」を－2，「やや羅列的」を－1，「媒介による統合」を0，「やや統合的」を＋1，「明らかに統合的」＋2として換算した。それぞれの代表的な絵は，絵1～5に示した。それぞれの評定基準は次のようである。



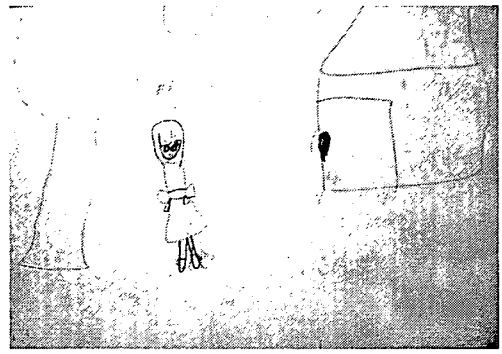
絵1　統合性＋2：小男子



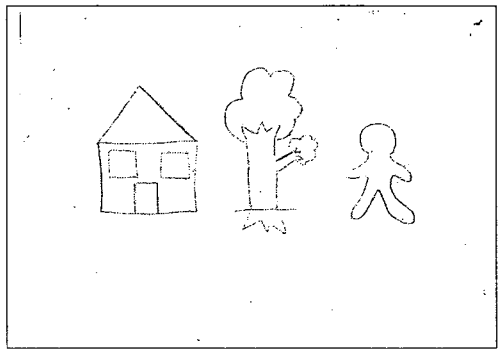
絵2　統合性＋1：小5女子



絵３　統合性０：１年男子



絵４　統合性－１：小１女子



絵５　統合型－２：中２女子

・＋２「明らかに統合的」；全体的に一つのまとまった場面構成がなされ，不調和な部分がない．
・＋１「やや統合的」；全体的に一つのまとまった場面構成がなされているが，一部に不調和な描写が残る．
・０「媒介による統合」;家と木と人の課題自体は羅列的だが，地面･山･草・雲などの媒介物によって，一応の統合は図られている．
・－１「やや羅列的」：一部にやや関連付けは見られるが，全体的には羅列的に描かれている。
・－２「羅列的」;家と木と人が無関係に羅列されている．

実際の判定に際しては，「羅列的」と「媒介による統合」と「明らかに統合的」は比較的容易に判断できるが，いずれにも判断し難い，それらの中間に位置するものが「やや羅列的」や「やや統合的」と分類されることになる。

以上のような基準によって評定された統合性の結果と，各分析項目との相関性については，次のような結果となった。まずプラスの相関として＊＊の強い相関を示したものは，「遠近感」，「陰」，「運動描写」であった。また＊の弱い相関を示したものは，「遠近感」の描写に具体的に関わる項目として，「山」，「道」，「田畑」などの付加物，「運動描写」に関わる「人の向きが混合」，「歩いてい

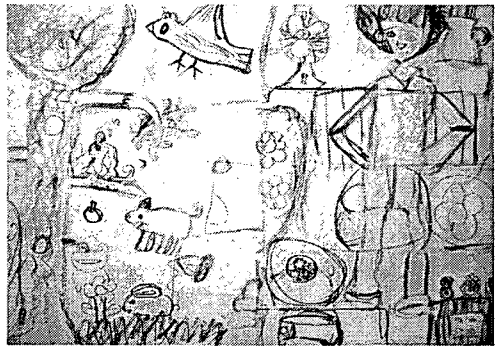
る」,「遊んでいる」などの項目，課題間の関係性を表す「家から遠ざかる」,「ドアに手を触れている」,「木に寄りかかっている」などの項目，課題の明細化に関わる「ひじあり」,「ひざあり」,「屋根の模様」,「ベランダ」,「ポスト」,「表札」,「枝描写」の項目，発達によって変化が見られる「壁の数」,「家が横長」,「基線あり」の項目，大きさのバランスに関わる「家はみ出し」の項目などが認められた。

それに対して，マイナスの相関として＊＊の強い相関を示したのは,「人が過大」,「人が浮き上がっている」,「家が縦長」の３つの項目，＊の弱い相関としては,「人の向きが正面」,「足なし」「短すぎる腕」,「上方直閉幹」,「全枝先直」など運動や明細化に関わる項目や，観念画期によく見られる描画特徴などであった。

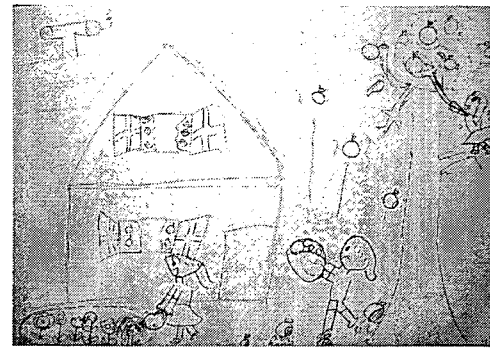
なお，今回はこれまで行っていた「統合性」の５段階の分析結果をそのまま尺度化して用いたが，今後は特に「やや羅列的」と「やや統合的」をそれぞれ低レベルのものと高レベルのものとに分けるために，他の尺度と同様に0.5ごとの評定基準を考えてみる必要があるものと思われた。

② エネルギー水準

エネルギー水準に関しては，主に描画サイズと筆圧，それに描かれているものの密度などを考慮しながら，以下のような基準にしたがって判断した。それぞれの代表的な描画は絵６～10に示した。

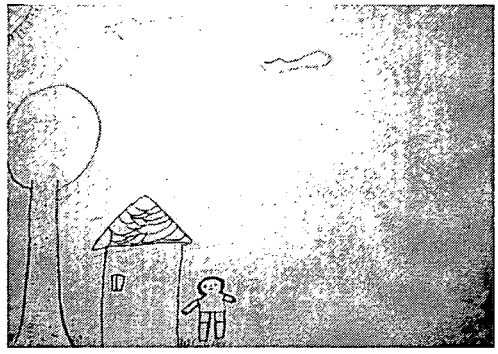


絵６　エネルギー水準＋２：小４女子

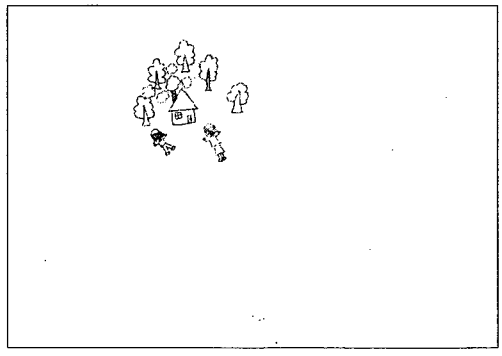


絵７　エネルギー水準＋１：小３女子

絵８　エネルギー水準０：小６女子



絵９　エネルギー水準－１：小１男子



絵10　エネルギー水準－２：小６女子

＋２：課題以外の付加物も入れて，画面全体を埋め尽くすように描かれているエネルギッシュな印象の絵。筆圧も強い。

＋１：画面全体に，付加物なども入れて，ほどよく描かれている絵。

０：画面全体に描いているが，基本的に課題のみで，空いている部分も多い。

－１：紙面の半分ほどしか使用していない絵。

－２：紙面のごく一部しか使っていない小さな絵。

このエネルギー水準についての判断は，大きさ・筆圧の強弱・密度の３要素を考え合わせて判断するので，描画サイズは大きくても筆圧が弱い場合は0.5下げたり，逆に描画サイズが小さくても筆圧が濃かったり，付加物を加えて密度が高かったりする場合は，0.5を加算するなど綿密な判定を行ったため，実際には＋1.5や＋0.5，－0.5と判断されたものがかなりあった。

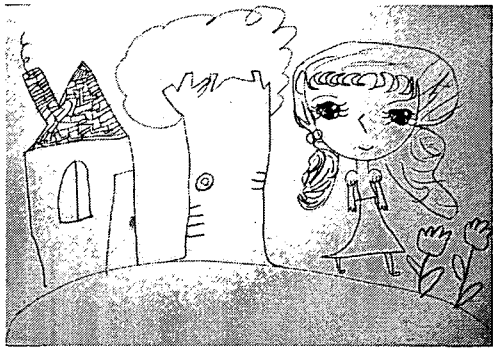
エネルギー水準と各分析項目の相関については，人の動きに関わる「家に寄りかかっている」が強い相関，「ドアに手を触れている」，「走っている」は弱い相関であった。また，描画サイズに関わる「田畑」，「家の面積」が弱い相関，それに対して「描画サイズが４分の１」は強い逆相関であった。絵の密度に関わる，明細化に関連した「ポスト」，「表札」は弱い相関，逆に「主要人物の顔が

ない」は強い逆相関を示した。さらに，自信のなさやうつ状態を反映するといわれる「影」や，浮遊感を伴う「人の浮き上がり」が逆相関を示したことも興味深い結果であった。

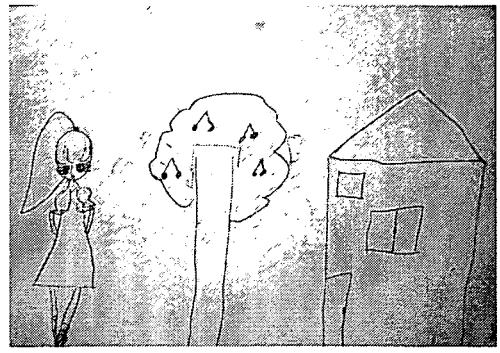
なお，今回の分析項目の中に描線の濃淡に関する項目が入っていなかったので，相関性を確認することができなかったが，もし入っていたならば，かなり高い相関性を示したものと思われる。

③ 自己評価

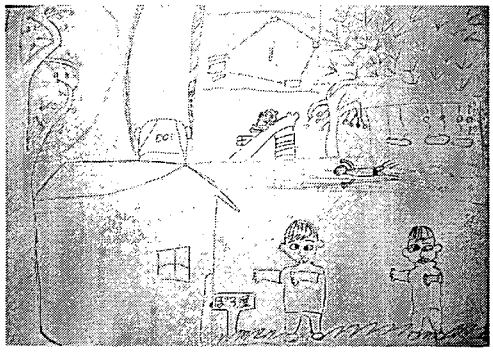
自己評価の判定に際しては，人物自体の大きさに加えて，家や木などとの大きさのバランス，人物像の明細化や装飾化，その逆の曖昧な描写や簡略化などを手掛かりとした。以下がその判断基準で，それぞれ代表的な描画を絵11～15に示した。



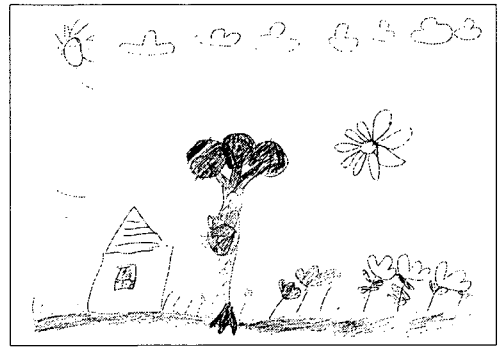
絵11　自己評価＋２：小１女子



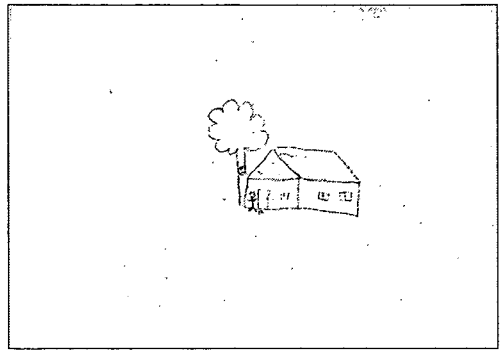
絵12　自己評価＋１：小１女子



絵13　自己評価０：小３男子



絵14　自己評価－１：小２男子



絵15　自己評価－２：小４男子

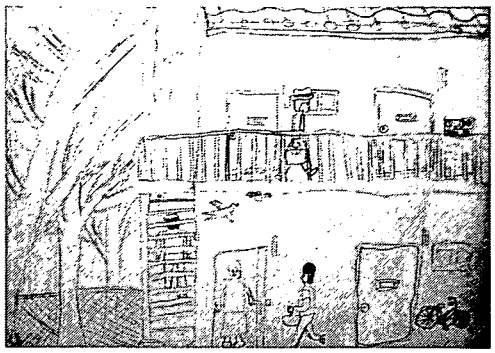
＋２：人物像が他に比べて極めて大きく，なおかつ過剰に装飾して描いている。
＋１：家に比べると人間像が過大に描かれている。
　０：人物がほぼバランスよく，普通に描かれている。
－１：人は簡略化されてはいないが，人物の大きさが小さい。
－２：人が簡略化されて，なおかつ極めて小さい。

この評定に関しても，人物の大きさ・他とのバランス・明細化などが微妙に絡むため，0.5刻みの評定となり，＋0.5や－0.5もかなり見られた。ただし，＋１と＋２の差はそれほど大きくないため，＋1.5を付けたものはほとんどなく，＋２は238枚中２枚見られただけである。

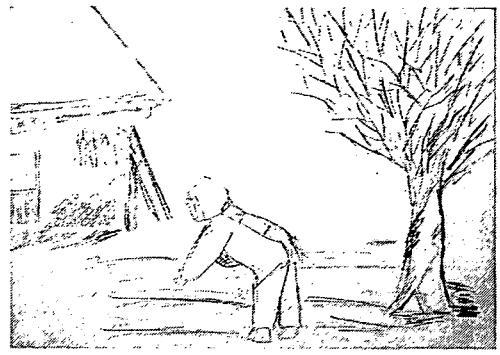
以上のように評定した自己評価と相関のあった分析項目は，人の大きさに関わる「背丈」，「人が過大」が強い相関，「主要人物の顔あり」が弱い相関で，逆相関については「描画サイズが４分の１」と「人物の記号化」が強い逆相関，「主要人物を簡略化」，「人が家の中だけにいる」が弱い逆相関を示した。また，「家の上にいる」，「仕事をしている」人を描いた場合，解釈上は自己評価が高いように思われるが，実際の分析結果は逆相関を示したのは，人間像をそのように描写する場合に小さくなりがちであることが影響したものと思われる。性別の「同性」が弱い逆相関を示したことついては，特に妥当な説明は思い当たらない。

④　内的豊かさ

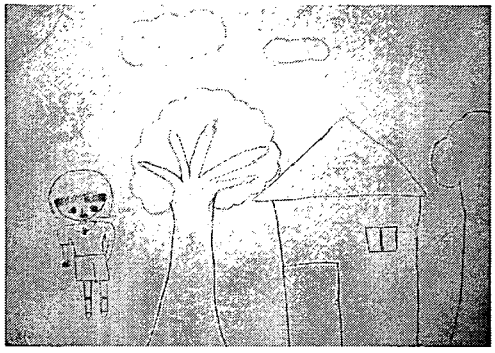
「内的豊かさ」に関しては，「エネルギー水準」が主に量的な要素に依拠するものであるのに対して，こちらは質的な要素を重視したもので，課題以外の付加物の有無や全体的なストーリー性などによって判断する。それぞれの代表的な描画を絵16～20に示した。それぞれの判断基準は以下の通りである。



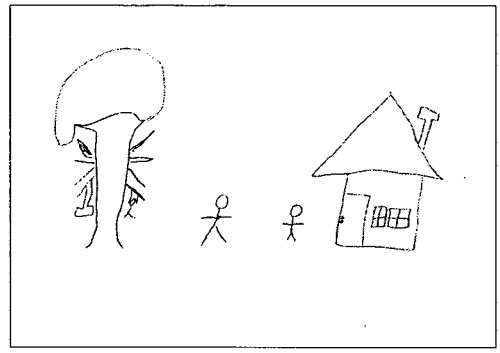
絵16　内的豊かさ＋２：小５男子



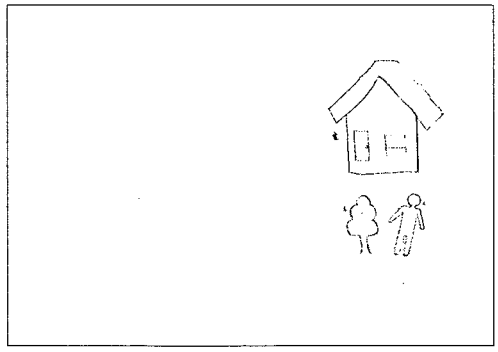
絵17　内的豊かさ＋１：小６女子



絵18　内的豊かさ０：小２女子



絵19　内的豊かさ－１：小３男子



絵20　内的豊かさ－２：中２女子

＋２：さまざまな付加物が描きこまれていて，全体的にストーリー性がある。

＋１：付加物かストーリー性かのいずれかが見られる。

０：課題だけが描かれているが，個々のものはしっかりと充実して描かれている。

－１：課題のみで，一部に簡略化が見られる。

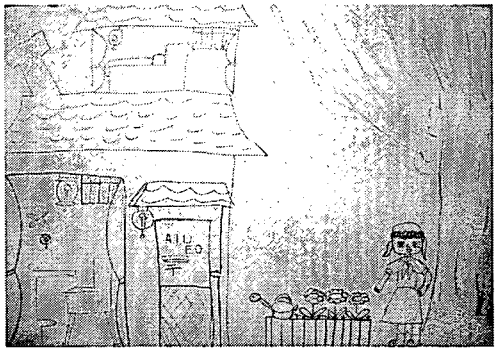
－２：課題のみで個々の描き方も簡略化されている。

この内的豊かさと分析項目との間の相関については，強い相関はまったく認められなかったが，弱い相関としては，絵に多様性や深みを与えるような「遠近感」，「陰」，「付加物」，具体的な付加物としては「山」，「囲い」，「門」，「田畑」などが見られた。また，ストーリー性があるか否かに関わるものとして「運動描写」，具体的には「家から遠ざかる」，「木に寄りかかっている」，「遊んでいる」など，さらに人と人との相互関係に関わる「人が家の中と外にいる」，「人の向きが混合」，家の明細化に関わる「屋根の模様」，「ポスト」，「表札」，「家が画面からはみ出している」などに正の相関性が認められた。

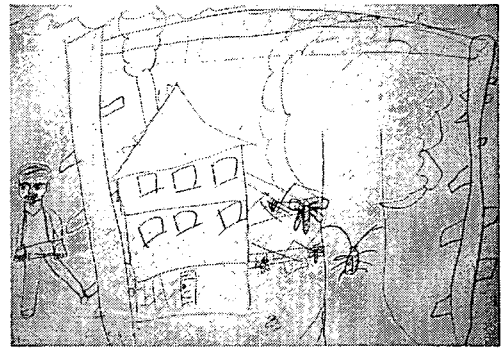
逆相関としては，「人の浮き上がり」が強い逆相関，「人が正面向き」，「人が過大」，「ドア・窓，または窓がない」が弱い逆相関を示し，いずれも柔軟性を欠いた，貧困な描写につながるような描画特徴である。

⑤　安定性

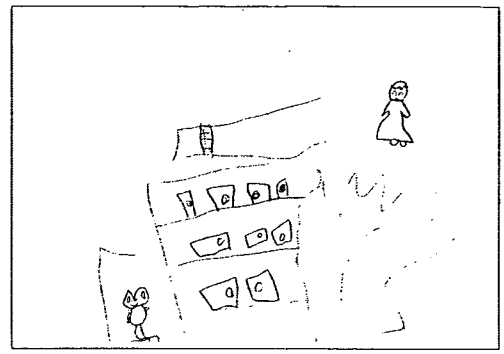
安定性の判断に際しては，筆圧のムラの有無，地面の有無，描かれた形体自体の安定感などが手がかりとなった。全体的にほぼ安定感があるものを０として，この尺度に限ってはそれ以上の＋１や＋２の判断は行わずに，－１と－２のマイナスの判断のみを行った。実際の判定は0.5刻みで行ったため，－0.5や－1.5としたものも多かった。それぞれの代表的な描画を絵21 ～ 23に示した。




絵21　安定性０：小５女子



絵22　安定性－１：小３男子



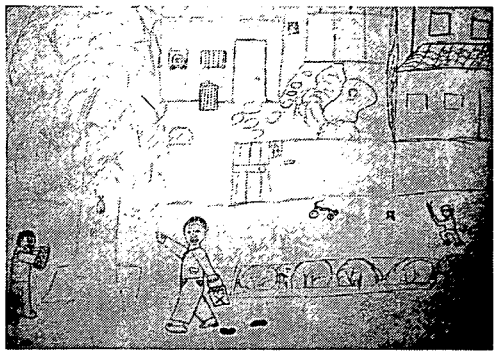
絵23　安定性－２：小１女子

０：全体的にほぼ安定感があるもの。
－１：形体か筆圧のいずれかが不安定なもの。
－２：形体も筆圧も目だって不安定なもの。

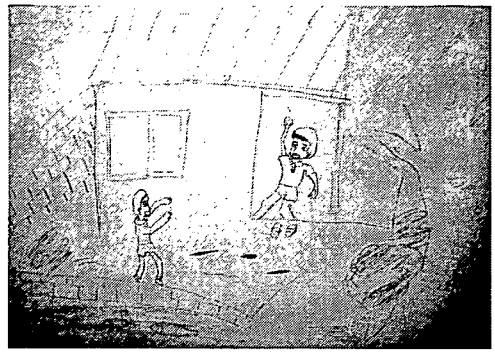
安定性と各分析項目の相関は，「門」と「家から遠ざかる」の２項目に強い相関が認められたのみで，あとは「ドアに手を触れている」，「家の上にいる」「シルエットのみの人」，「主要人物の簡略化」，「手なし」，「足なし」，「ドア・窓あるいは窓なし」，「枝直交」，「説明書き」に弱い逆相関が認められた。このうち，「ドアに手を触れている」以外の項目は，いずれも何らかの不全感を示す項目ではあるが，全体的に相関性を示した項目数は少なく，意味ある項目も少なかった。それは，今回の対象者が一般の小学生に限定されたために，不安定な絵は０か－0.5に限定されたためと思われる。研究会においてケース検討に出された絵は，かなりマイナスに評定されたものが多かったので，この尺度に関しては問題ケースを多数含めての検討がさらに必要と思われる。

⑥　社会性

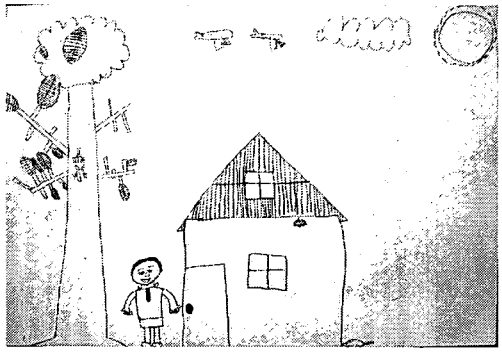
「社会性」についての評価は，人を何人描いているかと，ドアや窓など開口部があるかどうかを手がかりとして行った。その判断基準は以下の通りであり，0.5刻みで行った。それぞれの代表的な描画を絵24～28に示した。



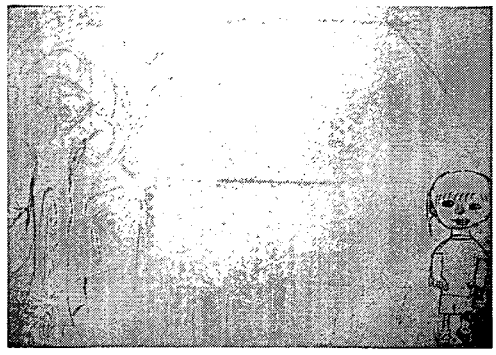
絵24　社会性＋２：小６男子



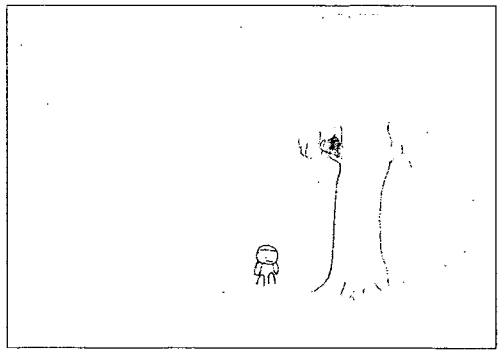
絵25　社会性＋１：小５女子



絵26　社会性０：小２男子



絵27　社会性－１：小３女子



絵28　社会性－２：中２男子

＋２：街並みが明確に描かれ，その中で３人以上の人物がしっかりと描かれている。

＋１：人物が２人交流して描かれているか，３人が交流なく描かれている。

０；人物が一人で，家の窓とドアが描かれている。

－１：人物が一人で，家の窓もドアも描かれていない。

－２：人物が一人で，現実的な家が描かれていない。

ただし，絵28のように－２の評価となったのはごくわずかであった。

この「社会性」と相関があった分析項目は，「人数」が強い相関性を示したのは当然として，他にも「人が家の中と外にいる」，「人の向きが混合」，「遊んでいる」が強い相関性を示し，「運動描写」，特に「人が家から遠ざかっている」，「木に登っている」などが弱い相関性を示した。いずれも人の数や動きに関わる項目である。それに対して，当然のことながら「人が家の中にいる」は弱い逆相関を，他にも「人が正面向き」，「人の浮き上がり」が弱い逆相関を示した。

以上，すべて相関性を示したのは人に関する項目であり，意外にも家の窓やドアなどの開口部に関する項目との相関性は特に認められなかった。それは，そもそも一般の小学生の絵では，ドアも窓もない絵は極めて少ないせいであったと思う。これも問題ケースを含めた再検討が必要であろう。

⑦ 学年

今回，「発達レベル」についての評価を避けたのは，まず各学年の標準的な描画特徴を明らかにしない限り難しいのではないかということで，無理に行うよりも次の課題として残すことになった。しかし，「発達レベル」に相当する「学年」と分析項目との相関性については，以下のような結果を得た。

まず，強い相関が見られたのは「田畑」のみであったが，弱い相関は「陰」，「山」，「運動描写」，「ひざあり」，「壁の数」，「家が横長」，「表札」などであった。これらは，確かに統合性や遠近感，写実性が増すにしたがって見られるようになる特徴である。また，思春期の心性として見られるようになる「描画サイズが４分の１」，「枯れ木」，「枝が単線」など，何らかの自信のなさ，不全感などを表す項目にも弱い相関性が認められた。

それに対して，「太陽」，「擬人化」，「人が正面向き」，「家が縦長」，「上方直閉幹」など観念画期の絵によく見られる特徴や，「手なし」，「足なし」，「首なし」，「短すぎる腕」，「記号化」，「人の浮き上がり」など未完成やバランスの悪さなどに関わる項目で，弱い逆相関が認められた。

以上の項目は，今後，発達的なレベルを考えていく上で，重要な手がかりになるものと思われる。

２）各チェック項目の評価基準

今回の分析対象は，一般の小学生に限定されてしまったために，各チェック項目に該当する絵が少なく，残念ながら統計的な分析はできないままに終わった。しかし，参考のために各チェック項目の出現数を，一般の小学生の絵238枚と17年度の研究会で出された事例28枚に分けて，表３に示した。これを見ると，「妄想的」はどちらも０になっている。成人を対象とした結果表では，特に統合失調症患者などの場合，何らかの奇妙な描写が見られると「妄想的」にチェックを入れることにそれほど迷いがないが，子どもの場合は空想世界を描いていたり，発達的な遅れを反映したりする場合があるため，必ずしも「妄想的」とは言えない，ということが実際のチェック段階で改めて認識された。そのため，「妄想的」という意味付けした言葉は避けて，「奇妙さ」というより客観的な描画特徴での表記に変えた。そうしたところ，一般群には９枚，事例群には10枚認められた。

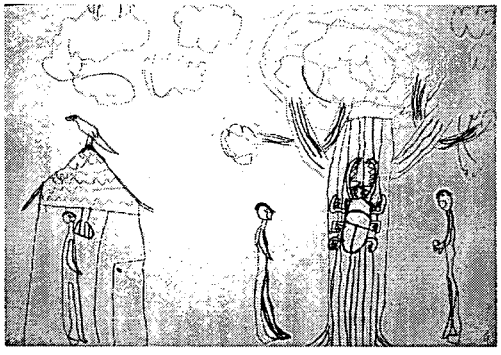
表3　各チェック項目の出現数

| | 人数 | 攻撃的 | 防衛的 | 妄想的 | 衝動的 | 強迫的 | 不安感 | 緊張感 | 美化 | 内閉的 | 奇妙さ | 性的 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一般 | 238 | 10 | 3 | 0 | 8 | 9 | 0 | 0 | 0 | 10 | 8 | 0 |
| 事例 | 28 | 5 | 4 | 0 | 7 | 2 | 2 | 5 | 4 | 8 | 10 | 4 |

また，２年度目の事例研究の中で，特に性的虐待の被害を受けている子どもに，性的シンボルと思われる描写が目立ったために，それも新たなチェック項目として加えておくことになった。それゆえ表３には，最初に設定された９項目だけでなく，新たに「奇妙さ」と「性的」というチェック項目も加えている。以下がそれぞれのチェック項目の評価基準である。

① 攻撃的

当然のことながら攻撃的な場面や破壊的な場面が描かれている場合は，ここにチェックが入れられるが，その他にも絵29と30のように，攻撃的な虫や動物が描かれていたり，鋭利な枝や草などの描写が見られたりする場合にもチェックされる。この「攻撃的」は，一般の児童の絵にも「内閉的」と同様に最も多く見られた特徴で，この項目は必要不可欠なものと思われる。

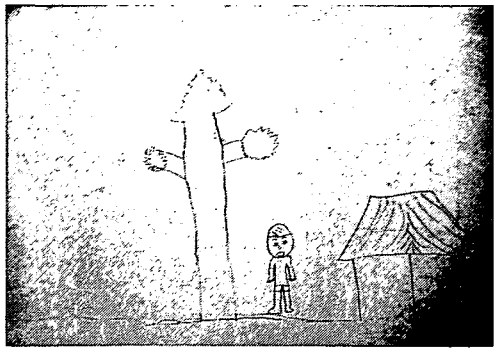


絵29　攻撃的：小１男子

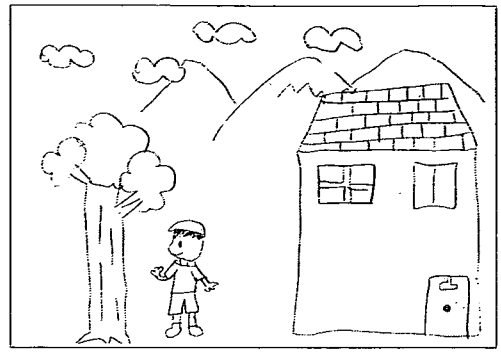
絵30　攻撃的：小４男子

② 防衛的

絵31と32のように，開口部が小さく，なおかつドアに鍵穴やのぞき穴などが明確な形で描かれている場合にチェックされた。この特徴は，今回はじめて加えた項目だが，どちらの群にもそれほど多くはないとは言え，出現した場合はかなり目立つ特徴でもあるので，今後も入れておいてもよい項目ではないかと思う。



絵31　防衛的：小３男子



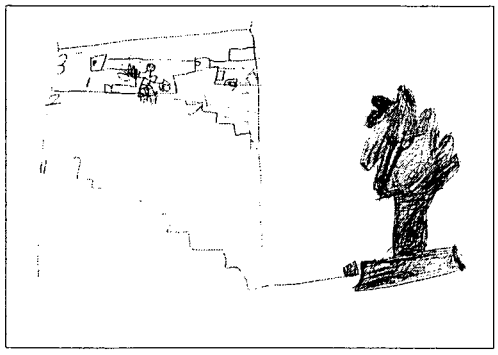
絵32　防衛的：小５女子

③　妄想的

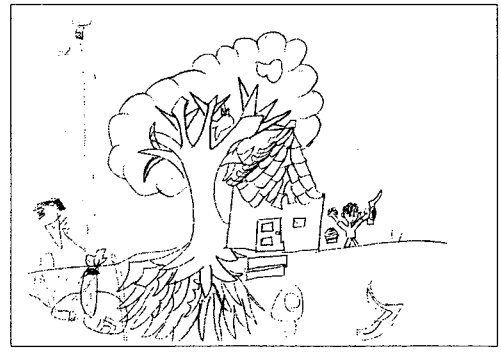
前述のように，子どもの場合は判断に迷う場合が多いために，これはチェック項目からはずした方が無難と思われた。

④　衝動的

絵33と34に示すように，木が黒塗りされていたり，鬱蒼とした樹幹が描かれていたり，画面からはみ出すように描かれていたりする場合にチェックされる。絵34などのような描写は，攻撃的に入れるか衝動的に入れるかで迷うことがあるが，この場合は鋭利な枝は攻撃的として，大きく広がった樹幹は衝動的としてダブルチェックしている。これは今回新たに加えた項目で，攻撃性との判別にやや不明確さは残るが，両群に比較的多く認められた項目でもあり，今後も残しておいてさらに検討したい項目である。



絵33　衝動的：小１男子



絵34　衝動的：小３男子

⑤　強迫的

絵35と36に示すように，葉や草，瓦などを一枚ずつ細かく丹念に描いている場合にこの項目がチェックされる。今回新たに加えた項目で，事例群よりも一般群の方に多く認められた特徴であ

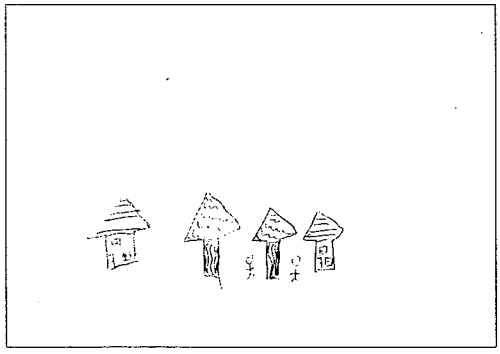
る。また，比較的チェックしやすい項目でもあるので，今後も残しておいてもよい項目と思われた。

絵35　強迫的：小３女子

絵36　強迫的：小４男子

⑥　不安感

実際に不安感にチェックが入れられていたのは，絵37と38に示す事例群の中の2枚のみで，それも改めて見ると，必ずしも明確にそう言えるものではなかった。思春期以降，特に成人の描画においては，あまり迷わずにチェックが入れられる項目であるが，子どもにおいてはほとんど該当する絵が見あたらなかったのは，発達的にまだ「不安感」という漠然とした感情を表現するまでには至っていないのかもしれない。それゆえ児童を対象とする場合はこの項目をはずした方が無難と思われる。



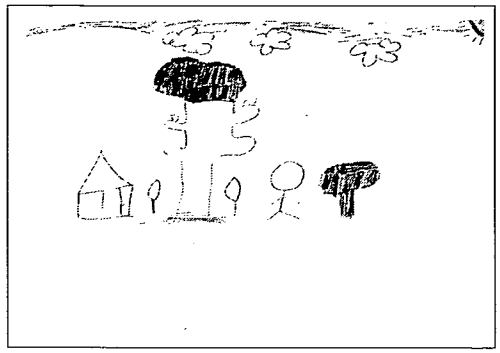
絵37　不安感：小６男子

絵38　不安感：中１男子

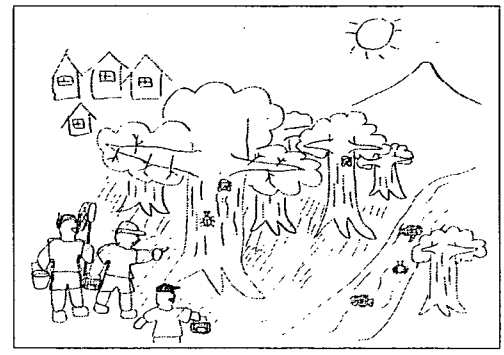
⑦　緊張感

絵39と40のように，全体的に筆圧の強さや黒塗りが目立つ絵である。このチェック項目と攻撃性や衝動性との判別が難しい場合があるが，攻撃性は攻撃的な場面や虫，動物，尖った枝や草などの描画内容から判別することが多く，衝動性は「内的自己像」として見られる木の描き方から判断されることが多い。それに対して，緊張感は筆圧の強さや黒塗りなどの筆のタッチから判断するこ

とが多い。それゆえ，しばらくの間，別にチェックしてみて，それらが確かに被検者の緊張感や攻撃性，衝動性を反映するかどうかを，統計的に確認していく必要があろう。



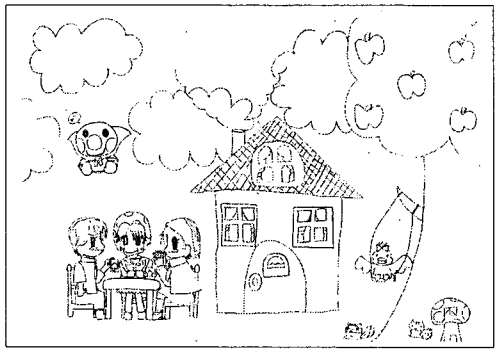
絵39　緊張感：小２男子



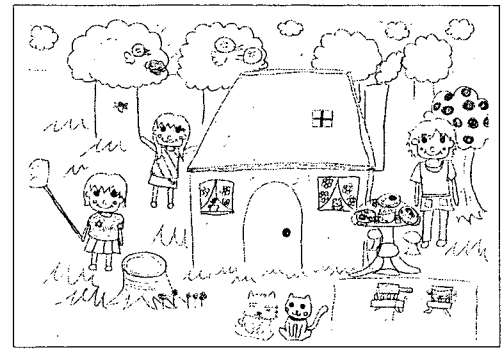
絵40　緊張感：小６男子

⑧　美化

絵41と42に示したように，過剰に人間像や家屋を飾り立てて描いたり，草花や動物などを入れて楽しげに描いたりした場合にチェックしたものである。一般群でそのような絵が描かれた場合は特にチェックすることはなかったが，事例研究会の中で特に被虐待児の絵の中に見られていたために，念のため新たな項目として設定し，４例がチェックされた。出現数はそれほど多いわけではないが，「美化・否認」という防衛機制からするならば，やはり着目すべき項目と思われる。



絵41　美化：小６女子

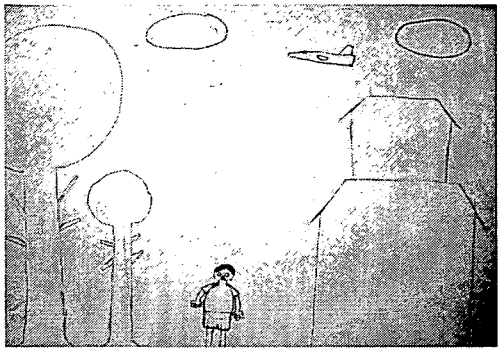


絵42　美化：中２女子

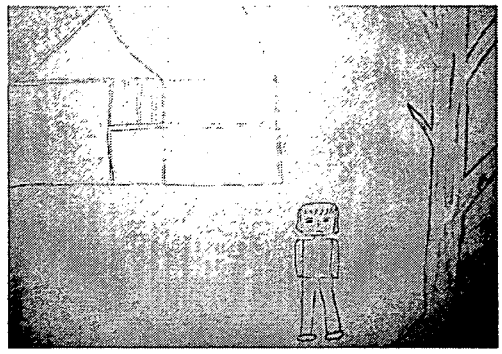
⑨　内閉的

絵43と44に示した開口部が小さかったり無かったり，人が家の中だけに描かれている場合に，チェックが入れられた。この項目は「社会性」の尺度とも関連があり，また「防衛的」というチェック項目との判別が紛らわしいケースもある。前述のように，「防衛的」とチェックされるのは，鍵穴の描写などより積極的な警戒心が表れている場合であるが，「内閉的」は一般群にも比較的見ら

れる特徴で，他者との交流を回避しがちな傾向をもう少し幅広く拾う意味がある。今後もチェック項目として残しておいて，「社会性」の尺度やチェック項目の「防衛的」との異同を検討すべきと思われた。



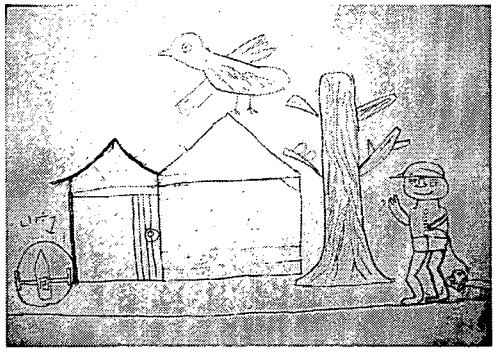
絵43　内閉的：小３男子



絵44　内閉的：小４女子

⑩　奇妙さ

絵45と46に示したように，空洞の目や，家の描き方の特異性，大きさの極端なアンバランスなど，明らかに奇妙な描写として気になった場合にチェックを入れた。成人の結果表では，「現実検討力」という尺度や「妄想的」というチェック項目で示されていたものである。先述したように，児童の場合は発達レベルやファンタジーなどさまざまな要素が絡むために，解釈的な言葉よりも客観的な言葉に置き換えてチェックしたものである。両群ともにかなり多く見られた項目で，それが成人と同様に何らかの病的兆候を示すものかどうかは，今後更に検討していく必要がある。

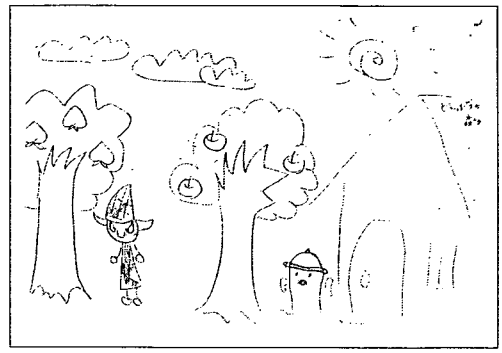


絵45　奇妙さ：小４男子

絵46　奇妙さ：小６女子

⑪ 性的

絵47に示すように，明らかに性的シンボルと思われるような描写が，特に性的虐待を受けた子どもの絵に見られた。それは，越智の研究結果でも明らかにされていた通りである。その数はそれほど多いわけではないが，出現した場合には背景に性的虐待の事実が隠されている可能性が高いので，今後も注目すべきチェック項目と思われた。



絵47　性的：中2女子

4）S-HTP評価用紙全体に関する考察

以上，各尺度やチェック項目ごとの検討を行ってきたが，最後にこの評価用紙全体に関する考察を行っておきたい。

まず，尺度に関しては，「統合性」と逆相関を示した「自己評価」について，今後どのように評価したらよいかという問題がある。前述のように，人物像が過大に描かれると「自己評価」は高くなるが，「統合性」は大きさのバランスが悪いという意味で，評価が下がってしまい，逆相関になるという問題である。それ以前に，成人の場合は人間像を過小に描くと「自信喪失」，過大に描くと「自信過剰」として解釈するが，児童のうち特に低学年の観念画期にある児童は，全般的に人間像を過大に描く傾向がある。それをそのまま「自信過剰」として判断していいのか，という疑問もある。それらを考え合わせるならば，この「自己評価」を新たな尺度として加えるよりは，例えば「自信がない」などのチェック項目を入れておくので十分ではないかと思う。

また，「安定性」の尺度に関しても，実際の評定では安定性のあるものを0として，それを基点として0から－2の間での評価になるという結果になった。それゆえ，これについても尺度として評定するよりも，チェック項目に「不安定」という項目を入れればよいものと思う。また，「不安感」のチェック項目の検討において述べたように，児童においては「不安感」がほとんどチェックされなかったことも考え合わせるならば，「不安感」より「不安定」というチェック項目のほうが，より客観的なチェックが可能と思われる。

以上をまとめると，評定尺度は「統合性」，「エネルギー水準」，「内的豊かさ」，「社会性」の4つの尺度と，今回の検討からははずした「発達レベル」が最終的に残った。このうち，「内的豊かさ」に

ついては，「統合性」との高い相関性を示し，分析項目との相関性もほとんどが統合性と同じ結果となり，なおかつ「エネルギー水準」や「社会性」とも相関を示している，という結果から，独立した尺度としてあえて残すべきかどうか，検討の余地がある。しかし，現段階では被験者の可能性を予知する尺度として，さらに検討したい尺度でもある。

以上のように「自己評価」と「安定性」と抜いて，最終的に残った，「エネルギー水準」，「内的豊かさ」，「社会性」，「発達レベル」に相当する「学年」のすべての尺度が，「統合性」とプラスの相関性を示しており，改めてこの「統合性」尺度を「総合的評価」と考えるか，あるいは改めて「総合的評価」を加えるかという問題が浮上する。今のところ統計的には「総合的評価」を設定するのは困難に思われるが，臨床的には設定する方向で検討を重ねたいと思う。

一方，チェック項目に関しては，「攻撃的」，「防衛的」，「衝動的」，「強迫的」，「緊張感」，「内閉的」，「美化」は残し，「妄想的」の代わりに「奇妙さ」を，「不安感」や「安定性」尺度の代わりに「不安定」を，「自己評価」尺度の代わりに「自信がない」というチェック項目を入れる。それに「性的」というチェック項目を加えて計11項目が今後検討すべき項目となった。

以上のような尺度やチェック項目を考えるためには，研究会における事例検討が大変参考になったが，今回の統計的分析では，それらのケースが使えなかったために，どうしてもデータはプラス方向に偏りがちになってしまった。今後，改めて問題ケースを加えた分析が可能となったならば，尺度のデータはより広く分散し，チェック項目の統計的な分析も可能となって，より有効な結果が得られるものと思う。そういう意味では，今回の結果は，評価用紙を作成するための第一歩を踏み出したものとして，今後は更なる検討が必要である。

## 研究２：S-HTP における発達的要素・環境的要素・個人的要素の分析

### １．研究方法

１）目　的：研究１では，本来あるべき描画発達を示した1981年の小学生の S-HTP 画に絞って分析を行ったが，研究2においては1997 ～ 99年の小学生の S-HTP 画もすべて含めて，学年差と年度差について改めて分析を行う。それによって，S-HTP における発達的要素と環境的要素と個人的要素を統計的に分別する。

２）対象者：先の表１に示したように，これまで小学校において S-HTP を実施してきた小学１年生から６年生までの児童，1981年の238名，1997年の178名，1998年の191名，1999年の181名の計788名である。

３）方　法：各分析項目についてロジスティック回帰分析によって，学年による有意差と年度による有意差とを明らかにする。

## 2．研究の結果

分析の結果は，表4に示すとおりである。これら全項目のうちで，①学年と年度の両方に有意差が認められた項目，②学年にのみ有意差が認められた項目，③年度にのみ有意差が認められた項目，④どちらにも有意差が認められなかった項目について，それぞれ以下の資料3にまとめた。

表4　各学年と各年度における有意差

| | | 学年差 | | 年度差 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | P値 | 有意差 | P値 | 有意差 |
| 統合性 | | 0.001 | *** | 0.001 | *** |
| 遠近感 | | 0.001 | *** | 0.001 | *** |
| 描線（複数線 vs） | | 0.667 | | 0.729 | |
| 描画サイズ | 全体で4分の1以下 | 0.999 | | 0.930 | |
| | ＨＴＰで4分の1以下 | 0.731 | | 0.420 | |
| 陰影 | 陰 | 0.874 | | 0.841 | |
| | 影 | 0.728 | | 0.423 | |
| 付加物 | | 0.429 | | 0.003 | ** |
| 付加物 | 山 | 0.004 | ** | 0.023 | * |
| | 道 | 0.001 | *** | 0.930 | |
| | 草花 | 0.993 | | 0.008 | ** |
| | 囲い | 0.005 | ** | 0.382 | |
| | 門 | 0.980 | | 0.783 | |
| | 雲 | 0.001 | *** | 0.001 | *** |
| | 太陽 | 0.001 | ** | 0.001 | *** |
| | 動物 | 0.008 | ** | 0.001 | *** |
| | 魚 | 0.001 | *** | 0.330 | |
| | 虫 | 0.006 | ** | 0.032 | * |
| | 鳥 | 0.095 | | 0.096 | |
| | ちょう | 0.199 | | 0.149 | |
| | 乗り物 | 0.363 | | 0.487 | |
| | 川 | 0.371 | | 0.095 | |
| | 田畑 | 0.540 | | 0.179 | |
| | 池 | 0.010 | ** | 0.799 | |
| | 虹 | 0.646 | | 0.345 | |
| | ツリー | 0.573 | | 0.043 | * |
| | 踏み石 | 0.346 | | 0.211 | |
| 木の中の動物 | | 0.184 | | 0.067 | |
| 非現実性 | 絵全体の現実性 | 0.001 | *** | 0.001 | *** |
| | キャラクター | 0.052 | | 0.001 | *** |
| | 擬人化 | 0.159 | | 0.143 | |
| | それ以外の非現実的描写 | 0.001 | *** | 0.001 | *** |
| 人と家の関係 | 家の中にいる | 0.897 | | 0.952 | |
| | 中だけ | 0.929 | | 0.344 | |
| | 中と外 | 0.696 | | 0.479 | |
| | 家から遠ざかる | 0.972 | | 0.885 | |
| | ドアに手をふれている | 0.959 | | 0.401 | |
| | 家を見ている | 0.974 | | 0.710 | |
| | 家へと歩いている | 0.086 | | 0.892 | |
| | 家の上にいる | 0.512 | | 0.804 | |
| | 家に寄りかかっている | 1.000 | | 0.999 | |

| | | 学年差 | | 年度差 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | P値 | 有意差 | P値 | 有意差 |
| 木と人の関係 | 木に接している | 0.758 | | 0.316 | |
| | 木に寄りかかっている | 0.610 | | 0.604 | |
| | 木に登っている | 0.005 | ＊＊ | 0.276 | |
| | 木にぶらさがっている | 0.337 | | 0.167 | |
| | 木を見ている | 0.965 | | 0.866 | |
| 人数 | | 0.077 | | 0.034 | ＊ |
| 向き（判別不能 vs） | | 0.147 | | 0.341 | |
| バランス | 過大 | 0.001 | ＊＊＊ | 0.001 | ＊＊＊ |
| 運動描写（判別不能 vs） | | 0.241 | | 0.002 | ＊＊ |
| 運動の内容 | 座っている | 0.073 | | 0.508 | |
| | 歩いている | 0.007 | ＊＊ | 0.225 | |
| | 走っている | 0.786 | | 0.499 | |
| | 遊んでいる | 0.001 | ＊＊＊ | 0.096 | |
| | 仕事している | 0.489 | | 0.098 | |
| 簡略化 | シルエット | 0.354 | | 0.007 | ＊＊ |
| | 記号化 | 0.001 | ＊＊＊ | 0.001 | ＊＊＊ |
| 主要人物 | 顔 | 0.141 | | 0.132 | |
| | 簡略化 | 0.001 | ＊＊＊ | 0.001 | ＊＊＊ |
| 部分について | 頭＞４頭身 | 0.500 | | 0.001 | ＊＊＊ |
| | ひじあり | 0.001 | ＊＊＊ | 0.001 | ＊＊＊ |
| | ひざあり | 0.001 | ＊＊＊ | 0.003 | ＊＊ |
| | 手なし | 0.951 | | 0.972 | |
| | 足なし | 0.998 | | 0.985 | |
| | 首なし | 0.001 | ＊＊＊ | 0.001 | ＊＊＊ |
| | 短かすぎる腕 | 0.001 | ＊＊＊ | 0.001 | ＊＊＊ |
| 人浮き上がり | | 0.003 | ＊＊ | 0.001 | ＊＊＊ |
| 数 | | 0.154 | | 0.931 | |
| 壁の数（不確実な２面 vs） | | 0.981 | | 0.706 | |
| 壁の形 | | 0.001 | ＊＊＊ | 0.001 | ＊＊＊ |
| ドア・窓 | | 0.042 | ＊ | 0.111 | |
| 付加物 | 屋根の模様 | 0.001 | ＊＊＊ | 0.001 | ＊＊＊ |
| | ベランダ | 0.393 | | 0.005 | ＊＊ |
| | アンテナ | 0.652 | | 0.802 | |
| | 雨樋 | 0.738 | | 0.030 | ＊ |
| | 煙突 | 0.014 | ＊ | 0.001 | ＊＊＊ |
| | カーテン | 0.024 | ＊ | 0.156 | |
| | 呼び鈴 | 0.740 | | 0.109 | |
| 数 | | 0.034 | ＊ | 0.544 | |
| 特徴 | 枯れ木 | 0.001 | ＊＊＊ | 0.015 | ＊ |
| | 樹皮 | 0.001 | ＊＊＊ | 0.001 | ＊＊＊ |
| | 上方直閉幹 | 0.001 | ＊＊＊ | 0.012 | ＊ |
| | 下方直閉幹 | 0.002 | ＊＊ | 0.020 | ＊ |
| | 全枝先直 | 0.001 | ＊＊＊ | 0.786 | |
| | 枝直交 | 0.368 | | 0.022 | ＊ |
| | 幹下縁立 | 0.038 | ＊ | 0.001 | ＊＊＊ |
| | 枝描写 | 0.001 | ＊＊＊ | 0.001 | ＊＊＊ |
| | 枝単線 | 0.177 | | 0.090 | |
| | 枝幹単線 | 1.000 | | 0.969 | |
| | 根 | 0.068 | | 0.325 | |

| | 学年差 | | 年度差 | |
|---|---|---|---|---|
| | P値 | 有意差 | P値 | 有意差 |
| うず | 0.148 | | 0.007 | ＊＊ |
| 実のある木 | 0.003 | ＊＊ | 0.022 | ＊ |
| 樹冠内に葉のある木 | 0.059 | | 0.604 | |
| 樹冠がなく葉のある木 | 0.001 | ＊＊＊ | 0.001 | ＊＊＊ |
| 切り株 | 0.937 | | 0.635 | |
| 説明書き | 0.454 | | 0.001 | ＊＊＊ |
| 定規使用 | 0.001 | ＊＊＊ | 0.001 | ＊＊＊ |

## 資料3

① 学年と年度の両方に有意差が認められた項目
（有意差についての＊印は，左が学年別，右が年度別の有意水準を表し，
＊は0.05＜P，＊＊は0.01＜P，＊＊＊は0.001＜Pを示す。）

・統合性　＊＊＊，＊＊＊
・遠近感　＊＊＊，＊＊＊
・山　＊＊，＊
・雲　＊＊＊，＊＊＊
・太陽　＊＊，＊＊＊
・動物　＊＊，＊＊＊
・虫　＊＊，＊
・絵全体の現実性　＊＊＊，＊＊＊
・キャラクター・擬人化以外の非現実的描写　＊＊＊，＊＊＊
・人物が過大　＊＊＊，＊＊＊
・人物の記号化　＊＊＊，＊＊＊
・簡略化した人物の顔がない　＊＊＊，＊＊＊
・ひじあり　＊＊＊，＊＊＊
・ひざあり　＊＊＊，＊＊
・首なし　＊＊＊，＊＊＊
・短すぎる腕　＊＊＊，＊＊＊
・人の浮き上がり　＊＊，＊＊＊
・壁の形　＊＊＊，＊＊＊
・屋根の模様　＊＊＊，＊＊＊
・煙突　＊，＊＊＊
・枯れ木　＊＊＊，＊
・樹皮　＊＊＊，＊＊＊
・上方直閉幹　＊＊＊，＊
・下方直閉幹　＊＊，＊
・幹下縁立　＊，＊＊＊
・枝描写　＊＊＊，＊＊＊
・実のある木　＊＊，＊
・樹冠がなく葉のある木　＊＊＊，＊＊＊
・定規の使用　＊＊＊，＊＊＊
以上，29項目

② 学年にのみ有意差が認められた項目
・道　＊＊＊

・囲い　＊＊
・魚　＊＊＊
・池　＊＊
・人が木に登っている　＊＊
・人が歩いている　＊＊
・人が遊んでいる　＊＊＊
・ドア・窓　＊
・カーテン　＊
・木の数　＊
・全枝先直　＊＊＊
以上，11項目

③　年度にのみ有意差が認められた項目
・付加物　＊＊
・草花　＊＊
・ツリー　＊
・キャラクター　＊＊＊
・人数　＊
・運動描写　＊＊
・シルエット　＊＊
・頭部が4等身より大　＊＊＊
・ベランダ　＊＊
・雨樋　＊
・枝直交　＊
・うず　＊＊
・説明書き　＊＊＊
以上，13項目

④どちらにも有意差が認められなかった項目
・描線
・描画サイズ（全体で4分の1以下，HTPで4分の1以下）
・陰影（陰と影）
・付加物（門，鳥，ちょう，乗り物，川，田畑，虹，踏み石）
・木の中の動物
・擬人化
・人と家の関係（家の中にいる，中だけ，中と外，家から遠ざかる，ドアに手を触れている，家を見ている，家へと歩いている，家の上にいる，家に寄りかかっている）
・木と人との関係（木に接している，木に寄りかかっている，木にぶら下がっている，木を見ている）
・人の向き
・運動の内容（座っている，走っている，仕事している）
・主要人物の顔の省略
・手なし
・足なし
・家の軒数
・壁の数
・家の付属物（アンテナ，呼び鈴）
・枝単線
・枝幹単線

・根
・樹冠内に葉のある木
・切り株
以上，44項目

## 3．まとめと考察

以上のように，学年による有意差と描画テストを実施した年度による有意差が両方とも認められた項目が29項目，学年による有意差のみが認められた項目が11項目，年度による有意差のみが認められたのが13項目，どちらにも有意差が認められなかった項目が44項目となった。以上のうち，発達的指標になり得るものは，学年による有意差が認められた①と②，環境的な影響と考えられるものは，年度によって有意差が認められた①と③と考えられる。さらに，どちらにも有意差が認められなかった④については，発達的な影響も環境的な影響も受けなかったものとして，個人的な特性を示す項目と考えられる。以上の仮説にしたがって，それぞれについて考察を加えたい。

1）発達的な指標と考えられる項目

まず，発達的な指標として考えうる①と②の項目を合わせると，次のような特徴がみられた。（それぞれの出現率に関しては，表5を参照）

表5　各学年の出現率

| 分析項目 | | 出現率 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| | 人数　計788人 | 142人 | 133人 | 133人 | 125人 | 115人 | 140人 |
| ＜全体＞ | | | | | | | |
| 統合性 | 羅列 | 4.2% | 1.5% | 0.8% | 0.0% | 1.7% | 0.7% |
| | やや羅列 | 19.7% | 10.4% | 4.5% | 8.0% | 5.2% | 15.0% |
| | 媒介による統合 | 69.7% | 53.7% | 48.9% | 17.6% | 18.3% | 17.1% |
| | やや統合 | 6.3% | 32.8% | 43.6% | 71.2% | 66.1% | 54.3% |
| | 明らかに統合的 | 0.0% | 1.5% | 2.3% | 3.2% | 8.7% | 12.9% |
| 遠近感 | なし | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | ばらばら | 9.2% | 3.7% | 0.8% | 0.8% | 2.6% | 5.0% |
| | 直線（重なりなし） | 26.8% | 23.9% | 19.5% | 9.6% | 2.6% | 8.6% |
| | 直線（重なりあり） | 36.6% | 25.4% | 30.8% | 31.2% | 20.9% | 14.3% |
| | ややあり | 26.1% | 34.3% | 35.3% | 36.8% | 34.8% | 35.0% |
| | 中 | 1.4% | 12.7% | 13.5% | 19.2% | 35.7% | 32.1% |
| | 大 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 2.4% | 3.5% | 5.0% |
| 描線 | とぎれのない一本線 | 94.4% | 80.6% | 75.2% | 68.0% | 57.4% | 50.7% |
| | とぎれとぎれの一本線 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | 複数線 | 0.7% | 1.5% | 6.0% | 4.0% | 4.3% | 12.1% |
| | スケッチ風の線 | 4.9% | 17.9% | 14.3% | 27.2% | 36.5% | 37.1% |
| 描画サイズ | 全体で4分の1以下 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.9% | 1.4% |
| | HTPで4分の1以下 | 2.8% | 1.5% | 1.5% | 4.0% | 0.9% | 2.1% |
| 陰影 | 陰 | 0.0% | 0.0% | 1.5% | 0.8% | 0.0% | 2.9% |
| | 影 | 0.7% | 0.0% | 0.8% | 1.6% | 2.6% | 2.9% |

| 分析項目 | | 出現率 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| | 人数　計788人 | 142人 | 133人 | 133人 | 125人 | 115人 | 140人 |
| 付加物 | なし | 9.9% | 6.7% | 6.0% | 5.6% | 5.2% | 10.7% |
| | あり | 90.1% | 93.3% | 94.0% | 94.4% | 94.8% | 89.3% |
| 内訳 | 山 | 2.1% | 7.5% | 5.3% | 14.4% | 12.2% | 12.9% |
| | 道 | 7.0% | 5.2% | 7.5% | 9.6% | 20.0% | 17.1% |
| | 草花 | 38.7% | 42.5% | 41.4% | 39.2% | 41.7% | 38.6% |
| | 囲い | 2.1% | 0.7% | 3.0% | 4.8% | 10.4% | 10.7% |
| | 門 | 0.7% | 0.0% | 0.8% | 1.6% | 1.7% | 1.4% |
| | 雲 | 43.0% | 53.7% | 51.1% | 38.4% | 29.6% | 30.7% |
| | 太陽 | 43.0% | 54.5% | 42.9% | 40.8% | 33.9% | 29.3% |
| | 動物 | 16.2% | 27.6% | 33.8% | 32.8% | 25.2% | 20.0% |
| | 魚 | 2.8% | 3.0% | 7.5% | 15.2% | 19.1% | 9.3% |
| | 虫 | 23.2% | 13.4% | 18.8% | 8.8% | 11.3% | 10.7% |
| | 鳥 | 18.3% | 26.1% | 27.1% | 28.8% | 19.1% | 16.4% |
| | ちょう | 12.7% | 9.0% | 3.8% | 9.6% | 7.8% | 7.1% |
| | 乗り物 | 19.7% | 9.7% | 12.0% | 16.0% | 15.7% | 15.0% |
| | 川 | 0.0% | 4.5% | 3.8% | 8.0% | 9.6% | 5.7% |
| | 田畑 | 0.0% | 1.5% | 1.5% | 0.8% | 0.9% | 3.6% |
| | 池 | 4.2% | 4.5% | 8.3% | 12.8% | 15.7% | 10.0% |
| | 虹 | 1.4% | 0.0% | 3.0% | 0.8% | 0.0% | 0.0% |
| | ツリー | 0.0% | 6.7% | 1.5% | 3.2% | 1.7% | 0.0% |
| | 踏み石 | 0.7% | 0.0% | 1.5% | 4.0% | 5.2% | 2.1% |
| 地面 | 全体 | 69.0% | 55.2% | 63.2% | 67.2% | 62.6% | 70.7% |
| | 部分 | 5.6% | 9.0% | 7.5% | 11.2% | 11.3% | 12.1% |
| | なし | 25.4% | 35.8% | 29.3% | 21.6% | 26.1% | 17.1% |
| 木の中の動物 | | 0.0% | 2.2% | 6.0% | 4.8% | 1.7% | 0.7% |
| 非現実性 | 絵全体　現実的 | 85.2% | 80.6% | 74.4% | 75.2% | 92.2% | 72.9% |
| | おかしいところがある | 9.9% | 8.2% | 15.0% | 12.0% | 5.2% | 15.0% |
| | 明らかに非現実的 | 4.9% | 11.2% | 10.5% | 12.8% | 2.6% | 12.1% |
| | キャラクター | 9.9% | 14.2% | 12.0% | 8.8% | 2.6% | 12.9% |
| | 擬人化 | 1.4% | 2.2% | 5.3% | 4.0% | 0.9% | 6.4% |
| | ファンタジー | 3.5% | 5.2% | 11.3% | 15.2% | 4.3% | 15.0% |
| 人と家の関係 | 家の中にいる | 19.7% | 17.9% | 18.8% | 23.2% | 19.1% | 19.3% |
| | 中だけ | 4.9% | 4.5% | 3.0% | 3.2% | 4.3% | 3.6% |
| | 中と外 | 14.8% | 13.4% | 15.8% | 20.0% | 15.7% | 15.7% |
| | 家から遠ざかる | 0.0% | 1.5% | 2.3% | 1.6% | 0.9% | 1.4% |
| | ドアに手をふれている | 0.0% | 1.5% | 3.0% | 3.2% | 2.6% | 0.0% |
| | 家を見ている | 0.0% | 0.7% | 0.0% | 0.8% | 1.7% | 1.4% |
| | 家へと歩いている | 2.8% | 3.7% | 3.8% | 4.8% | 7.8% | 10.0% |
| | 家の上にいる | 0.7% | 3.7% | 4.5% | 4.0% | 1.7% | 2.9% |
| | 家に寄りかかっている | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 1.6% | 0.0% | 0.0% |
| 木と人の関係 | 木に接している | 2.1% | 0.0% | 3.0% | 2.4% | 5.2% | 4.3% |
| | 木に寄りかかっている | 0.0% | 4.5% | 0.8% | 0.0% | 1.7% | 3.6% |
| | 木に登っている | 4.2% | 9.0% | 15.8% | 8.0% | 4.3% | 4.3% |
| | 木にぶらさがっている | 0.7% | 3.0% | 2.3% | 4.0% | 0.9% | 0.7% |
| | 木を見ている | 0.7% | 0.7% | 0.0% | 1.6% | 0.9% | 1.4% |
| <人> | | | | | | | |
| はみ出し | なし | 95.1% | 94.0% | 88.7% | 88.0% | 90.4% | 86.4% |
| | 画面からはみ出し | 3.5% | 3.0% | 7.5% | 8.0% | 6.1% | 10.0% |
| | 他のものに隠れている | 1.4% | 2.2% | 3.8% | 4.0% | 3.5% | 3.6% |

| 分析項目 | | 出現率 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| | 人数　計788人 | 142人 | 133人 | 133人 | 125人 | 115人 | 140人 |
| 性別 | 同性 | 83.1% | 86.6% | 78.2% | 80.8% | 76.5% | 80.0% |
| | 異性 | 0.7% | 0.7% | 1.5% | 0.8% | 1.7% | 0.0% |
| | 両性 | 12.7% | 10.4% | 13.5% | 13.6% | 14.8% | 8.6% |
| | 判別不能 | 3.5% | 1.5% | 6.8% | 4.8% | 7.0% | 11.4% |
| 向き | 正面 | 86.6% | 70.1% | 58.6% | 39.2% | 37.4% | 41.4% |
| | 横向き | 2.1% | 11.2% | 18.8% | 15.2% | 20.0% | 15.7% |
| | 後ろ向き | 0.0% | 1.5% | 0.0% | 1.6% | 2.6% | 5.0% |
| | 斜め | 1.4% | 3.7% | 4.5% | 4.8% | 7.8% | 12.1% |
| | 混合 | 8.5% | 11.9% | 18.0% | 37.6% | 27.8% | 20.0% |
| | 判別不能 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 他とのバランス | 明らかに過大 | 44.4% | 21.6% | 24.1% | 8.8% | 14.8% | 20.7% |
| | 過大とは言えない | 55.6% | 77.6% | 75.9% | 91.2% | 85.2% | 79.3% |
| 運動描写 | 手が横 | 26.1% | 9.7% | 4.5% | 1.6% | 0.0% | 0.7% |
| | 直立不動 | 35.2% | 26.1% | 15.8% | 11.2% | 10.4% | 10.7% |
| | 簡単な運動（ポーズ） | 18.3% | 24.6% | 37.6% | 33.6% | 30.4% | 40.0% |
| | 明瞭な運動 | 17.6% | 37.3% | 39.8% | 52.8% | 54.8% | 42.9% |
| | 判別不能 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 運動の内容 | 座っている | 0.7% | 7.5% | 2.3% | 4.8% | 7.0% | 7.9% |
| | 歩いている | 2.8% | 9.0% | 12.0% | 17.6% | 12.2% | 15.7% |
| | 走っている | 0.0% | 0.7% | 1.5% | 2.4% | 3.5% | 2.1% |
| | 遊んでいる | 12.7% | 23.9% | 30.1% | 38.4% | 38.3% | 19.3% |
| | 仕事している | 2.8% | 2.2% | 4.5% | 4.0% | 7.0% | 4.3% |
| 簡略化 | シルエット | 6.3% | 2.2% | 3.8% | 3.2% | 4.3% | 7.1% |
| | 記号化 | 3.5% | 2.2% | 5.3% | 4.0% | 12.2% | 17.1% |
| 主要人物 | 顔 | 99.3% | 99.3% | 99.2% | 97.6% | 94.8% | 95.0% |
| | 簡略化 | 8.5% | 4.5% | 7.5% | 5.6% | 11.3% | 18.6% |
| 部分について | 頭＞4頭身 | 68.3% | 76.1% | 66.9% | 70.4% | 71.3% | 67.9% |
| | ひじあり | 14.1% | 11.9% | 18.0% | 28.0% | 25.2% | 28.6% |
| | ひざあり | 1.4% | 4.5% | 9.0% | 19.2% | 20.0% | 17.9% |
| | 手なし | 3.5% | 1.5% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | 足なし | 1.4% | 0.0% | 0.8% | 0.0% | 0.9% | 0.0% |
| | 首なし | 36.6% | 17.2% | 9.8% | 19.2% | 13.0% | 13.6% |
| | 短かすぎる腕 | 19.0% | 9.0% | 6.0% | 5.6% | 4.3% | 1.4% |
| | 人浮き上 | 10.6% | 7.5% | 2.3% | 0.8% | 2.6% | 0.7% |
| ＜家＞ | | | | | | | |
| はみ出し | なし | 93.0% | 88.8% | 87.2% | 70.4% | 73.0% | 68.6% |
| | 画面からはみ出し | 7.0% | 11.2% | 12.0% | 26.4% | 26.1% | 29.3% |
| | 他のものに隠れている | 0.0% | 0.0% | 0.8% | 3.2% | 0.9% | 2.1% |
| 壁の数 | 1面 | 97.2% | 92.5% | 77.4% | 58.4% | 60.9% | 53.6% |
| | 不確実な2面 | 0.7% | 1.5% | 3.0% | 3.2% | 2.6% | 3.6% |
| | 2面　平面的 | 2.1% | 3.0% | 15.8% | 23.2% | 13.9% | 22.1% |
| | 立体的 | 0.0% | 2.2% | 3.0% | 12.8% | 20.9% | 19.3% |
| | 3面 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 家の形 | 縦長 | 60.6% | 53.0% | 27.8% | 26.4% | 21.7% | 14.3% |
| | 正方形 | 9.2% | 12.7% | 14.3% | 16.0% | 6.1% | 7.1% |
| | 横長 | 24.6% | 24.6% | 49.6% | 40.8% | 62.6% | 67.9% |
| | 混合 | 4.9% | 6.0% | 6.0% | 6.4% | 6.1% | 6.4% |
| | 判別不能 | 0.7% | 3.7% | 2.3% | 2.4% | 3.5% | 4.3% |

| 分析項目 | | 出現率 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| | 人数　計788人 | 142人 | 133人 | 133人 | 125人 | 115人 | 140人 |
| ドア・窓 | ドア・窓なし | 4.2% | 3.0% | 3.8% | 1.6% | 0.0% | 2.9% |
| | 窓なし | 7.0% | 4.5% | 8.3% | 0.8% | 7.8% | 7.1% |
| | ドアなし | 14.1% | 11.2% | 16.5% | 16.0% | 19.1% | 14.3% |
| | ドア・窓あり | 74.6% | 81.3% | 70.7% | 81.6% | 73.0% | 75.7% |
| | 判別不能 | 0.0% | 0.0% | 0.8% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 壁の基線 | なし | 1.4% | 0.0% | 0.8% | 2.4% | 0.9% | 2.1% |
| | 縁立 | 47.9% | 46.3% | 33.1% | 32.8% | 22.6% | 25.7% |
| | あり | 50.7% | 53.7% | 66.2% | 64.8% | 76.5% | 72.1% |
| 特異な家（カテゴリー化） | 山小屋風 | 99.3% | 100.0% | 98.5% | 96.8% | 96.5% | 96.4% |
| | | 0.7% | 0.0% | 1.5% | 3.2% | 2.6% | 3.6% |
| | | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.9% | 0.0% |
| | 農家風 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |
| | マンション | 87.3% | 94.8% | 97.7% | 92.8% | 95.7% | 95.0% |
| | | 12.0% | 4.5% | 1.5% | 4.8% | 1.7% | 2.9% |
| | | 0.7% | 0.0% | 0.8% | 0.8% | 1.7% | 1.4% |
| | | 0.0% | 0.7% | 0.0% | 0.0% | 0.9% | 0.7% |
| | | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.8% | 0.0% | 0.0% |
| | | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.8% | 0.0% | 0.0% |
| | 学校 | 99.3% | 99.3% | 99.2% | 99.2% | 97.4% | 99.3% |
| | | 0.7% | 0.7% | 0.8% | 0.8% | 2.6% | 0.7% |
| | 城 | 99.3% | 100.0% | 99.2% | 97.6% | 100.0% | 98.6% |
| | | 0.7% | 0.0% | 0.8% | 2.4% | 0.0% | 0.7% |
| | | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.7% |
| | 店 | 100.0% | 99.3% | 97.7% | 96.8% | 98.3% | 98.6% |
| | | 0.0% | 0.7% | 2.3% | 1.6% | 0.0% | 1.4% |
| | | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.8% | 0.9% | 0.0% |
| | | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.9% | 0.0% |
| | | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.8% | 0.0% | 0.0% |
| | その他の住居外建造物 | 100.0% | 99.3% | 99.2% | 99.2% | 98.3% | 97.1% |
| | | 0.0% | 0.7% | 0.8% | 0.0% | 1.7% | 2.9% |
| | | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.8% | 0.0% | 0.0% |
| 付加物 | 屋根の模様 | 29.6% | 48.5% | 47.4% | 45.6% | 60.9% | 54.3% |
| | ベランダ | 0.0% | 3.0% | 6.0% | 9.6% | 8.7% | 6.4% |
| | アンテナ | 1.4% | 1.5% | 1.5% | 3.2% | 4.3% | 2.9% |
| | 2階建て | 43.0% | 24.6% | 32.3% | 43.2% | 41.7% | 29.3% |
| | ポスト | 2.1% | 4.5% | 6.0% | 4.8% | 10.4% | 7.1% |
| | 表札 | 0.7% | 0.7% | 2.3% | 2.4% | 3.5% | 7.1% |
| | 雨樋 | 0.0% | 1.5% | 1.5% | 3.2% | 3.5% | 0.7% |
| | 煙突 | 34.5% | 38.8% | 35.3% | 25.6% | 20.9% | 24.3% |
| | 階段 | 3.5% | 7.5% | 6.0% | 6.4% | 9.6% | 5.0% |
| | カーテン | 16.2% | 20.9% | 15.0% | 24.8% | 29.6% | 16.4% |
| | 呼び鈴 | 1.4% | 3.7% | 0.0% | 4.0% | 2.6% | 4.3% |
| <木> | | | | | | | |
| はみ出し | なし | 96.5% | 85.8% | 82.7% | 75.2% | 75.7% | 72.1% |
| | 画面からはみ出し | 3.5% | 11.9% | 15.0% | 20.0% | 21.7% | 25.7% |

| 分析項目 | | 出現率 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | 6年 |
| | 人数　計788人 | 142人 | 133人 | 133人 | 125人 | 115人 | 140人 |
| | 他のものに隠れている | 0.0% | 2.2% | 2.3% | 4.8% | 2.6% | 2.1% |
| 特徴 | 枯れ木 | 1.4% | 2.2% | 4.5% | 12.8% | 2.6% | 7.9% |
| | 樹皮 | 23.9% | 24.6% | 23.3% | 48.8% | 40.9% | 41.4% |
| | 上方直閉幹 | 33.8% | 17.9% | 9.8% | 4.0% | 0.9% | 0.7% |
| | 下方直閉幹 | 14.8% | 4.5% | 5.3% | 4.0% | 1.7% | 4.3% |
| | 全枝先直 | 12.7% | 23.9% | 7.5% | 4.0% | 4.3% | 2.9% |
| | 枝直交 | 6.3% | 10.4% | 3.0% | 7.2% | 0.0% | 0.0% |
| | 幹下縁立 | 50.0% | 53.7% | 44.4% | 45.6% | 44.3% | 33.6% |
| | 枝描写 | 50.7% | 77.6% | 62.4% | 76.8% | 75.7% | 53.6% |
| | 枝単線 | 2.8% | 4.5% | 5.3% | 7.2% | 9.6% | 4.3% |
| | 枝幹単線 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 2.1% |
| | 根 | 16.9% | 24.6% | 27.8% | 20.0% | 27.8% | 15.7% |
| | うず | 2.8% | 3.7% | 5.3% | 9.6% | 4.3% | 2.9% |
| | 実のある木 | 13.4% | 24.6% | 25.6% | 15.2% | 13.0% | 11.4% |
| | 樹冠内に葉のある木 | 4.2% | 7.5% | 10.5% | 7.2% | 1.7% | 3.6% |
| | 樹冠がなく葉のある木 | 4.9% | 20.1% | 11.3% | 23.2% | 10.4% | 3.6% |
| | 切り株 | 0.7% | 1.5% | 1.5% | 2.4% | 0.0% | 1.4% |
| 説明書き | | 4.2% | 10.4% | 9.0% | 7.2% | 7.0% | 9.3% |
| 定規使用 | | 2.1% | 10.4% | 7.5% | 22.4% | 6.1% | 4.3% |

「統合性」については，学年が上がるにつれて明確な有意差を示して，大きな発達的な指標となることが，研究２でも確認された。表５の数値を参照するならば，「媒介による統合」が学年が上がるにつれて69.7%から17.1%に下がり，「明らかに統合的」が０%から12.9%に上がるという具合に，統合性が増していく。また，「遠近感」についても，大きな有意差を示し，「直線重なりなし」が学年が上がるにつれて，26.8%から8.6%に下がる一方，「遠近感・中」は1.4%から32.1%へ，「遠近感・大」が０%から5.0%という具合に，発達にしたがって絵は遠近感を増す。この「遠近感」に関わる，「山」，「道」，「囲い」などの付加物も有意差を示し，高学年で増加する。

また，それぞれの課題の明細化に関わる項目である，人の「ひじ」，「ひざ」，「首」，家の「ドア・窓」，「屋根の模様」，「煙突」，「カーテン」，木の「樹皮」，「枝」，「実」，「葉」などが，高学年になるに従って多くなる傾向が見られた。さらに，「過大な人」や「短すぎる腕」などのバランスの悪い描写や，「上方直閉幹」や「下方直閉幹」「全枝先直」などの図式的な樹木の描写は，発達につれて少なくなっていくことが明らかとなった。

以上の項目は，いずれもこれまでの研究では，子どもの絵が図式画期から写実画期へと変わっていくという特徴に合致する結果である。

一方，「絵全体の現実性」や「キャラクター・擬人化以外の非現実的描写」で，学年別の有意差が出ているが，実際の出現率を見ると必ずしも学年が上がるにつれて，現実的な描写が増えているとは言えない。それは，97～99年の群において，非現実的な描写が，低学年では12.7%であったのに対して，高学年では13.5%とむしろ上がっており，「キャラクター・擬人化以外の非現実的描写」についても，8.5%から16.2%に上がっているという結果を受けてのことと思われる（三沢，2002)。これ

らの項目は，年度別でも大きな有意差を示していることから，学年差よりも年度差の影響が大きいものと思われる。

また，学年別で有意差を示した項目であっても，必ずしも低学年から高学年にかけて増加するとは限らず，「雲」や「太陽」，「虫」，「煙突」などのように高学年になるにしたがって減るものや，「動物」，「人が遊んでいる」，「実のある木」，「樹冠内に葉のある木」など，中学年で一時的に増える項目もある。

一方，従来言われてきた発達的な変化とは別に特異な描き方として，例えば「人の記号化」やそれに伴う「顔のない人」，それに「枯れ木」，「定規の使用」などの項目が，高学年になるにつれて有意に多くなった。これらは，かつては思春期の不全感や自信のなさを示す特徴として，中学・高校になって多く見られた特徴であるが，今回は小学校高学年で有意に多くなっているのは，97～99年の影響をかなり強く受けた結果と思われる。

なお，研究１では正常な描画発達を示していた81年の描画だけに絞って分析したが，研究２では97～99年度に実施した結果もすべて含めて分析した。研究1では対象者238名に対して，研究２では97～99年も加えると対象者が788名となったために，研究１では学年との相関を示した項目が24項目であったのに対して，研究２では有意な学年差を示した項目数は40項目と多くなった。そのうち，両者で有意な結果を得た項目は，「統合性」，「遠近感」，「山」，「運動描写」，「ひざあり」，「家が横長」，「記号化」，「枯れ木」（以上，高学年になるにつれて出現率が上がる），「太陽」，「首なし」，「短すぎる腕」，「人の浮き上がり」，「家が縦長」，「上方直閉幹」（以上，高学年になるにつれて出現率が下がる）の14項目で，これらは現在の児童にも通用しうるかなり確かな発達的指標として考えてよいものと思う。

２）環境的な指標と考えられる項目

前記の仮説の中で，年度によって有意差を示した項目①と③とが，環境的な変化を反映した項目と考えられる，と述べた。このうち①については，学年差も認められたけれど，年度差もあったということで，1981年と1997～99年の間で，それぞれの学年差の度合いが異なった項目であるとも言える。まず，先の研究結果（三沢，2002）を見ながら，それらを確認しておきたい。

前回の研究では，81年にのみ低学年と高学年の有意差が見られたのは，「太陽↓」，「ひざあり↑」「首なし↓」，「屋根の模様↑」，「枯れ木↑」，「枝描写↑」（注：↑は学年が上がるにつれて出現率が高くなり，↓は低くなる）の６項目で，これらは81年の方が学年差が明らかに大きかったものと言える。

それに対して97～99年にのみ低学年と高学年の有意差が認められていたのは，「虫↓」，「キャラクター・擬人化以外の非現実的描写↑」，「人物の記号化↑」，「簡略化した人物の顔がない↑」，「人の浮き上がり↓」「下方直閉幹↓」，「定規の使用↑」の６項目で，これらは97～99年の学年差の方が明らかに大きかったと言える。

また，先の研究でどちらも一応低学年と高学年との間で有意差が認められていたが，81年の方がより差が大きかったものは，「統合性↑」，「遠近感↑」，「人物が過大↓」，「ひざあり↑」，「短すぎる腕↓」「壁の形（横向き）↑」「煙突↓」，「樹皮↑」，「実のある木↓」などで，逆に97～99年の方が

目立って発達差が大きい，というものは特になかった。

以上の結果を見るならば，81年の方がそもそも学年差を示した項目数が多いし，その項目内容も観念画期から写実画期へと移行していくのを反映したものであった，と言える。それに対して，97～99年にのみ見られた項目は，むしろ特異な内容である。

一方，③の年度差のみが認められた13項目について特徴的なのは，81年に比べて97～99年の群が，付加物や人をより有意に多く描いていることである。「付加物あり」が，81年は低学年89.5%，高学年85.1%に対して，97～99年はそれぞれ93.7%と95.9%，また「人が3人以上」が，81年の低学年27.4%，高学年24.6%に対して，97～99年はそれぞれ28.5%，38.0%という結果であった。ただし，それぞれの明細化は81年の方が優れていて，「人の運動描写」や家の「ベランダ」，「雨どい」，木の「うず」などの描写が81年に有意に多く見られ，逆に，「頭部が4頭身より大」や「キャラクター」，「シルエットのみの人」，「枝が直行」，「説明書き」などの特異な表現は，97～99年の群に有意に多く見られた。総じて言うならば，97～99年の群はたくさんのものを描こうとするが，一つ一つのものは粗雑に描く傾向があるのに対して，81年は描かれている物の数は少ないが，それぞれを丁寧に描くという傾向が見られた。

3）個人的特性の指標と考えられる項目

最後に，学年でも年度でも有意差が認められなかった44項目について考えてみたい。この④は一見，意味ある結果が得られなかった項目と思われるが，逆に発達の影響も環境の影響も受けない，個人的な特質を表すものとして重要な意味をもつものと思われる。実際に，この④に分類された項目は，「描線」，「描画サイズ」，「陰影付け」，「付加物」，「人と家の関係付け」，「人と木の関係付け」，「人の向き」，「運動内容」，「家の軒数」，「家の付属物」，「根や葉の表現」など，これまでの研究の中では，パーソナリティの特性を読み取る上で，重要な手がかりとなっていた項目である。

また，「主要人物の顔の省略」，「手なし」，「足なし」，「枝単線」，「枝幹単線」，「切り株」などは，いずれも出現率は低かったが，何らかの問題を示すサインとして，これまでの研究においても重要視されてきたものである。

以上のように，学年においても年度においても有意差が認められなかった④の項目は，今後，年齢や環境の影響を超えて個人的特性を反映する項目として，注目すべきものと考えられる。

## Ⅵ. 全体のまとめと今後の課題

描画テストの一種であるS-HTPを，子どもの臨床現場で活用するために，結果をより簡便かつ客観的に読み取るための基礎的な研究を行った。具体的には東京都の児童相談所心理判定員14名との共同研究によって，約百枚の描画を分析検討した結果，暫定的な評価用紙を作成した。そして，そこに含まれた尺度やチェック項目がどのような描画特徴から判断されるか，その判定基準を明らかにし，最終的にそれぞれの採否を検討するために，これまで小学生に対して実施してきたS-HTPの分析結

果と照合した（研究１）。また，小学生に実施してきた全S-HTP画を対象として，学年差と年度差を統計的に明らかにすることによって，描画の発達的要素と環境的要素，それに個人的特性とを判別する手掛かりを求めた（研究２）。それらの結果をまとめると，以下のようになる。

1．はじめに暫定的に作成した評価用紙においては，－２から＋２までの５段階の尺度として，「統合性」，「エネルギー水準」，「発達レベル」，「自己評価」，「内的豊かさ」，「安定性」，「社会性」の７尺度を設定したが，それぞれについて検討した結果，「自己評価」と「安定性」については尺度よりも，「自信のなさ」や「不安定」というチェック項目に置き換えた方がよいものと思われ，最終的に「統合性」，「エネルギー水準」，「内的豊かさ」，「社会性」の４尺度が今後も検討すべき尺度として残った。
2．チェック項目については，はじめ「攻撃的」，「防衛的」，「妄想的」，「衝動的」，「強迫的」，「不安感」，「緊張感」，「美化」，「内閉的」の９項目を設定していたが，それぞれについて検討した結果，「妄想的」は「奇妙さ」に，「不安感」は「不安定」というように，より客観的な描画特徴を示す項目に置き換え，「自信のなさ」，「性的描写」を加えて，計11項目が今後検討すべきチェック項目として残った。
3．「発達レベル」についての評価は，各発達段階ごとの標準的な描画を明らかにしなければできないために今回の評定からは外したが，研究１では学年と相関を示した24項目が，研究２では学年差を示した40項目が，今後，発達レベルを評定する上で重要な手掛かりとなることが明らかになった。
4．暫定的な評価用紙の中には，一応「総合的評価」尺度も入れていたが，「発達レベル」の評定と同様に実際の評定は困難で，これも今後の課題として残った。ただし，「統合性」の評価は，最終的に残された他の４尺度すべてと相関性を持ち，「総合的評価」に順ずる尺度であることが確認された。
5．研究2において行った年度差と学年差を統計的に分析した結果，学年差と年度差の両方が認められた項目が29項目，学年差のみ認められた項目が11項目，年度差のみが認められたのが13項目，どちらにも有意差が認められなかった項目が44項目となった。今後，S-HTP画における発達的要素と環境的要素と個人的要素を判読する上で，これらの結果は大いに参考になるものと思われた。

今回，研究会で検討された事例は評価用紙を作成する上では大いに参考となったが，実際の統計的な分析においては使用できなかったために，十分な結果が出せなかったことは大変残念であった。現在，改めて養護施設などにおいて被虐待児に対するS-HTPを実施しているところで，それらが一定のデータ数に達した段階で，もう一度分析し直したいと思っている。ただし，今回の研究結果は，子どものS-HTPを判定するためのより簡便で客観的な評価用紙を作成する上で，貴重な資料となり得るものと思う。

最後に，本研究にご協力いただいた東京都児童相談センターと児童相談所の心理判定員の皆様，また小学生のS-HTP画の評定にご協力いただいた市川珠理さんと森あずささん，さらに統計的な分析にご協力いただいた星野崇宏氏に心より感謝いたします。

## 参考文献

・Buck, J. N. : The H-T-PTechnique-a qualitative and quantitative scoring manual. J. CIin.Psychol. 4.317-396 1948, 5.37-76 1949（加藤孝正，荻野恒一訳：HTP診断法　新曜社　1982）
・Swensen, C. : Empirical evaluation of human figure drawings : 1957-1966. Psychol. Bull70, 20-44 1968
・高橋雅春：描画テスト診断法　文教書院　1967
・高橋雅春：描画テスト入門　―HTPテスト―　文教書院　1974
・細木，中井，大森，高橋，：多面的ＨＴＰ法の試み．芸術療法３，61－65　1971
・丸野，徳田，荻野：破瓜病的心像世界へのイメージ絵画療法的接近．芸術療法６，23－37　1975
・三上直子：統合型HTP法における分裂病者の描画分析～一般成人との統計的比較～．臨床精神医学８，79－90　1979
・三上直子：統合型HTP法における分裂病者の描画分析～病態に応じた継時的変化～．臨床精神医学８，1479－1487　1979
・三上直子，岩崎和江：統合型HTP法における幼稚園児から大学生までの描画発達―分裂病者の描画特徴との関連において―．臨床精神医学10，1331－1339　1981
・三上直子：母子関係の悪化に対する予防的アプローチ　―離婚家庭13組の母子にエゴグラムと統合型HTP法を施行して―．心理臨床学研究10，76－83　1992
・三上直子：「S-HTP法　統合型HTP法による臨床的・発達的アプローチ」，誠信書房，1995
・三沢直子：「描画テストに表われた子どもの心の危機　S-HTPにおける1981年と1997年～99年の比較」，誠信書房，2002
・三沢直子：幼稚園児の描画の変化―1979・85年と2005年のS-HTP画の比較―．明治大学心理社会研究第二号　57－71　2006
・三沢直子：描画テスト（S-HTP）に現れた子どもの発達の問題．臨床描画研究 Vol.23　64－81，2008
・三上直子・平川善親・尾崎敏子他「非行少年の統合型HTP法に関する発達的アプローチ」臨床描画研究12：196－217，1998
・桑原尚佐・森永利英・濱野公子他「家事事件における描画テストの効果的活用方法について―統合型HTP法を中心として―」調研紀要第68号，25－57，1998
・森田裕司：統合型HTP法における分裂病者の描画特徴―全体的評価による因子分析―．心理臨床学研究６，29－39　1979
・須賀良一：分裂病者の絵画の描画形式と臨床像との相関について―その１．分裂病者の描画形式と形式分析における多次元尺度解析法の応用―．精神医学29，1057－1065　1987
・市川珠理：統合型HTP法における分裂病者の描画構造―多変量解析による分析―．臨床精神医学17，1221－1233　1988
・溝口純二・前川あさ美「描画法における人間像の発達的研究」平成７年－平成９年度科学研究費補助金基礎研究Ｃ・研究成果報告書，1999
・越智啓太「投影法を用いた性的虐待被害児の識別―批判的展望―」犯罪心理学研究第41号第２巻63－78，2003
・松田文子「大学生による中学生へのピア・サポート・プログラムの効果（1），福山大学こころの健康相談

室紀要第1号，2007
・山岡京子：統合型HTP法（S-HTP）の基礎的研究　―情動知能（EQS）との比較において―，2006年度修士論文
・西田翠里：中年期のアイデンティティとS-HTPにおける描画特徴の関連，2006年度修士論文
・土井　拓朗：統合型HTP法と動的家族描画法による家族関係のアセスメント～家族機能測定尺度FACES Ⅲと親子関係診断尺度EICAを用いて～，2007年度修士論文
・古賀美由紀：保育園におけるセカンドステップのS-HTPによる効果検討，2007年度修士論文
・吉田洋二：子どもたちのゲームによるバーチャル体験について―S-HTPを併用して―，2007年度修士論文

（みさわ・なおこ　元文学部教授）